



222号

今月の発信

あこら自立の心理学

# 私たちが 「安全」をつくる

危険なのは戦争だけではない。多角的に「危険」を考察し  
自らの「安全」をつくる途を目指す

〈あこら自立の心理学〉学習会そのV

総選挙に女性の風をノ岡崎ひろみ・岡崎トミ子さんが立候補

チエチエンで何があったのか

—— 反戦で結ばれた母親たち ——

白鳥美津子さんの  
すてきな詩画集が  
できました

岐阜の会員、白鳥さん。  
やさしいお母さんです。  
子育てしながら  
主婦しながら  
折々に湧き出た  
珠玉の詩と絵

10人の方にプレゼントします  
下記BOC出版部にどうぞ

# ほおずきの<sup>うた</sup>詩

詩と画 白鳥美津子



—— 自費出版承ります ——

ご予算に応じてどのようにでも…

〒160 東京都新宿区新宿 1-9-4 BOC出版部

03-3354-3941 FAX 3355-9014

## 選挙で「沖縄」を「いのち」を守りたい

「バカヤロー解散」など、解散には名前がつくが、今度の解散には名前のつけようがない、とマスメディアは書き立てている。私は「崩壊解散」「液状化解散」と呼びたい。「沖縄・安保」はじめ、戦後五十年間の歪みを問うべき争点は、「行革」と「消費税」に矮小化された。

政治腐敗、政治不信は極限に達していた。液状化した国会は、ずっと前に解散すべきだった。それができなかったのは、小選挙区制でいかに勝つかという政策をそれぞれ練る時間がほしかったから——とは、衆目の認めるところである。私たちが、土曜も日曜もないほど反対し続けた小選挙区・比例代表並立制を、マスメディアは当時こぞって推進したが、今になって多くの欠陥が指摘されている。中でも一番の問題は、いわゆる無党派層の票の行きどころがないことであろう。新制度では直近の選挙で二%以上の得票があるか、五名以上の議員を持つ政党でなければ、政党と認められない。選挙法改正で巨額の政党助成金が、五名以上の議員を持つ政党に与えられたが、政治献金の規制は有名無実なものになった。自民党は六百九十億の資金、と報道されている一方、志のあるミニ政党は、比例区の供託金さえない状況である。共産党の大躍進は確実だろうが、沖縄を守り、民衆のいのちを守る勢力が三割を越すとは思えない。

十月五日、東京ではへ北京JACV一周年を期して、「女性たちのエンパワーメント」シンポジウムが開かれ、全国からの参加者が、女たちのみなぎるパワーを如実に示した。「もう女性党をつくるしかないわね」の声が、会場のあちこちでささやかれた。「政治を若者の手に」の声があるが、若者だけではない。「障害」者、高齢者、零細企業従業者、女性等々、今まで政治にかかわれなかった層が政治の担い手にならないかぎり、政治の液状化は続くだろう。希望を託す政党がないのなら、創るほかあるまい。

(斎藤 千代)

## 目次

選挙で「沖縄」を「いのち」を守りたい

斎藤千代 1

AGORAZEIN 私たちが「安全」をつくる

芦澤 礼子／桑原ちる子／斎藤 千代／沢宮 容子／しまようこ 4  
田中 喬子／田村 伴子／内藤 紈子／湊 温子／山田絵理子

総選挙に女性の風を！ 二人のへあごろゝ会員が立候補

兵庫三区 岡崎ひろみさん／宮城一区 岡崎トミ子さん

28

報告 チェチェンで何があったのか——反戦で結ばれた母親たち

〈チェチェン母親協会〉 マティナ・マゴマドワ  
〈ロシア兵士の母親委員会〉 マリア・キリバツソワ  
〈日本山妙法寺〉 寺沢潤世

33

めじゃーなりすとのめ　私がカメラで伝えたいもの

小長谷康乃　66

気になる英語

ポリティカリー・コレクト

奥川　睦　68

TOPICS

トイレで写真を撮られた！「北浦和サティ・セクハラ事件」に抗議　ほか　70

集会から

子育てすんだらパートで議員／大久野島でシンポジウム「毒ガス島から」　ほか　77

沖縄から

今こそ沖縄の声を！　沖縄のへあごら／会員からメッセージ　88

阪神から

いま阪神は……「禍を転じて福にしています」　ほか　96

あごら読書室

性差別主義と戦争システム／天に轟け　地に潤せ　99

あごらのあごら

103

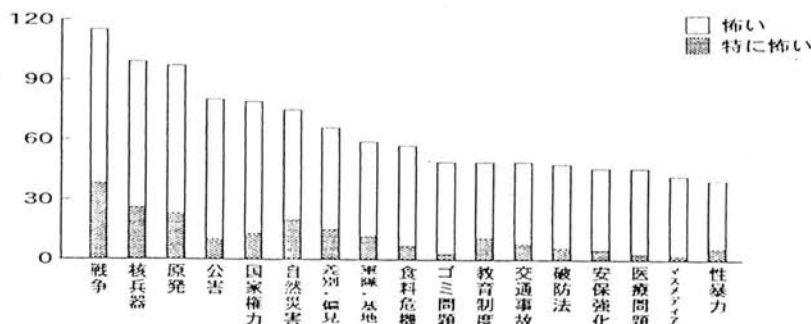
# 私たちが「安全」をつくる

〈あごら自立の心理学〉

芦澤礼子／桑原ちゑ子／斎藤千代／沢宮容子／しまようこ

田中喬子／田村伴子／内藤囀子／湊 温子／山田絵理子

(50音順・敬称略)



芦澤 へ自立の心理学では、私たちを抑圧している「お上」について考え続けてきましたが、その線上で「安全」ってなあに」を問いかけて、前号でアンケート「私にとって怖いものは……」をお願いしました。その結果が一応まとまりましたので、今日は、それに基づいて話し合いたいと思います。

しま この表は、五十項目のうち、値の高いものを出ただけです。「怖いもの」と「特に怖いもの」を足して。

斎藤 「誰も怖いと思わなかった項目」は？

芦澤 一項目もありませんでした。

斎藤 それでは、アンケートの項目すべて、何かしら怖いと思ったんですね。

芦澤 そうです。いちばん少ないのが「自分の親または子ども」で一人、「舅、姑」が二人で二人、三番目が「イデオロギー」で三人。斎藤 なるほど…。この中で戦争にまともされるもの、「戦争」とか「軍隊、基地」、「核兵

器、核実験」、「原発、核廃棄物」、「日米安保強化」などを一緒にしたら戦争関連がだんぜん多くなりますね。

しま そうですね。「戦争」と「軍隊、基地」、「核兵器、核実験」、「原発、核廃棄物」と「日米安保強化」が「戦争」でくくれますね。国家権力と破防法を「権力」として一つに。あと「事故」、交通事故と自然災害はちがうけど、いわゆる事故として……。生活、環境、ゴミ、食料などが「生命・生活」にまとめられる。特に怖いものは二点とカウントしてあります。医療、薬害は一つにして医療問題に。教育とか社会操作とかいうので、マスメディアとか、日本の教育とか、差別・偏見（ちよつと違いますけれど）を「教育及び社会操作」という点でまとめる無理をしました。性暴力や痴漢はどうでしょうか……。そのまとめはともかく、これを見ながら話し合いが進むといいと思います。

## バブルは法人税制の不備で拡大した

斎藤 個人的な感想から話し合うことにしましょうか。私はやっぱり情報操作が怖い。バブルの問題も発端は情報操作で

すよね。株がもうかる、土地がもうかる、という情報がどんどん流された。一流新聞まで株式情報欄を拡大して、主婦層までが金もうけに走るようになった。しかも、バブルは日本の法人税と深い関係があるという情報は流さないんです。

去年、日本の大銀行が、全部、税金がほとんどゼロになりましたね。法人税は、売上から支出を差し引いたものに対して税金がかかるんです。バブル時代さんさんもうけたのに、その時投資した土地が値下がりしたから税金を払わないというのは、どう考えてもおかしなことです。個人所得は原則として所得に応じて何%という税金がかかる。基礎控除はじめ、いろいろな控除がありますけど。法人に対しても一定の控除を設け、あとは一律何%という税金にすれば、バブルがはじけても税金がゼロになることはあり得ない。バブルで、企業がなぜあんなに株と土地に走ったかというと、利益があったからです。その利益を使わないと、差益に税がかかるから、みんな土地や株を買ったんです。

企業の売上げは捕捉できない、というかもしれませんが、株式会社は株主に経営資料を公表する責任がある。売上げをごまかすことはほとんどできない。いま消費税ですべての物

に三%税がかかっていますね。企業の売上に、消費税プラス二%、最低五%を課すると、何十兆っていうお金がすぐに出てくるんじゃないかしら。パチンコなんて、今六十兆産業なんですよ。五%の税率として、パチンコ業界からだけで三兆の法人税が入ることになる。これをなぜ実行しないんでしょうね。税制の専門家に一度聞きたいともうずっと前から思っているんですけど。銀行だって私たちの零細な送金の手数料に対してさえ三%消費税をかけているのに、なぜ税金を払わなくていいんでしょう。納得がいけない。

消費税には、初め商店街がみんな大反対した。ところが、いったん始まってみると益税だから、両手を挙げて賛成するようになった。これで五%になったら、さらにまた益税が増える……。

しま 消費税を納税しなきゃいけないのは、年間三千万円の売上？

田村 三千万円以上です。

しま 近所の八百屋さんは最初消費税取ってなかったんですよ。ところが、改築してきれいにしたとたん消費税を取るわけ。すごくおかしいと思うんだけど、つまり三千万円の

売上っていうのはどうにでもごまかされるわけ？

斎藤 税務署の人がひと目見れば、この場所でこの構えの店ならいくら収入、ってわかるそうですが、小さな店一つひとつ押さえるだけの人手はない。結局、自己申告に頼るわけですね。その八百屋さんは、税込みの値段にしていたのを外税にした。実質的な値上げですね。結局、いつも苦しむのは収入をごまかしようのないサラリーマンと、収入のない弱者、お年寄りとか病人とかじゃないですか。

## 情報サリン・政治サリン下の私たち

しま 例えばアメリカでは、州によって違いますけれど、ミシガン州は八パーセントなんですよ。でも食料品には一切かかりません。そうあるべきだと思う。

斎藤 物品税の時は貴金属に重税がかかって、食料などにはかかりませんでしたものね。消費税は改悪です。

しま 怖いものリストには「税のシステム」って入ってませんでしたけど。

山田 「その他」のところで「増税」と書いた方が一人いら



っしやいます。

斎藤 「税制」を入れればよかったですね。パプルの根源です。今度の選挙の争点になってもいいんだけど、消費税のことは言っても税制の見直しについては言わない。

しま すべてのシステムを政治家が都合の良いようにやっていますね。

斎藤 五十項目もあって、怖いと思わなかった項目が一つもないのは面白いですね。日本の政治家の話では「怖いのは外敵だけ」ですものね。わが身を守ることとはどういう事か。私たちに何ができるか、そこまで話せたらいいですね。

しま システムはどうであろうと、私たちは個人で生きる。斎藤 今何が怖いかっていうと、サリンがまかれていような状態なんじゃないかしら。ありとあらゆる人間を害する見えない気体が充滿しているのに、皆ほとんど気がつかないから怖い。下北半島につながれていた原子力船「むつ」も、結局ボロボロになってから原子力装置をはずして「みらい」になってやっと役に立つことになった。原発も、まだ出来て三十年経ってないのに廃棄処分。導入のとき「いざれ原子炉は使えなくなる。それ、どこに捨てるんだ」って、市民運動が

ものすごく騒いだのに、いま、廃棄処分についての報道はない。

浅海 が汚染されているとか、酸性雨が大変だとか。

斎藤 そういう地球規模の問題もありますね。

田村 すみません。何回か来れない時があったので、ちょっと流れがわからないところがあるかもしれないんですけど、「怖い」ということは関してなのですが、その「怖さ」って何なのか。本当に怖いのか。何か私たちが「怖い」という感情だけで怖いといって挙げてしまった時に怖さの身を確認しないと、「怖さ」にふりまわされてしまうのではないかと思うんです。本当に怖いんじゃないかと、作られている怖さもあるし、逆に危険性があるのに怖さを感じないものもあるわけですよ。例えば、私が怖いと思うのは、本当に物理的に生命を脅かされること、それから、決定する事に自分が関われなくて、自分や自分たちの運命や生き方が誰かに勝手に決められてしまうこととかです。怖さの中身をじっくり見ていかないと、実は自分たちが関われるかもしれないのに、関われなれないと思込まれてしまっていて、その事が怖いと思うているかもしれない。特に、政治権力に関しては、斎藤

さんがおっしゃったように、その「怖さ」と、これから自分が何をしていけるのかという事が大切で、怖さの中身と自分たちの繋がりを見たいと思うんですけれど。

しま 結果としてそのとおりだと思いますけれど、初めっから怖さを規定してしまうのはまずい。

斎藤 今、五つくらいのジャンルに分けてみましたけれど、それが本当に怖いかわからないかを検証してみましようか。

しま どういう怖さなのか。

斎藤 それをきちんと考えてみたら私たちが被害妄想なのか、それとも「日本のカナリヤ」なのか、わかるのでは。

しま 例えば戦争は絶対誰にとっても怖い、っていうか、個人がいくら何してもどうしようもないものが起きる可能性はあるでしょ。でも国家権力の怖さになると、主観がかなり違ってきますよね。

斎藤 そうですね。そういう検証も含めて、まず、一番目の「戦争」は本当は怖いのか、から始めて、一つづつ潰していきませんか。戦争が怖いと思うのは、日本人の中に過去の戦争の恐怖があるのかもしれない。

芦澤 いや、むしろ、戦争が怖いに○をしている人は、若い

世代に目立つ気がする。六十年代は九〇%なんですけど、五十年代は比率として少ない。

斎藤 五十代は、戦争中、幼児期でしたからね。

芦澤 十代はサンプルが少ないんです。二十代だと、二十人中十人が○つけていて、そのうち七人が特に怖いに◎。比率としては二十代が相当高いです。

しま 情報から来ている、悪い意味ではなくてね。

芦澤 ところが、三十代になりますと、十四人中十人が怖いと言ってますが、「特に」は比率がぐっと減って一人だけですよ。四十代では二十九人中二十一人で、そのうち特に怖いという人は十一人。五十代は十七人中十二人が怖い。「特に」の人は八人。六十代では十三人中十二人が怖い。特に怖いとなると七人。七十代は少ない。二人が怖いで、「特に」は一人。斎藤 いま日本人で戦争の危機があると思う人は、案外少ないと思いますね。戦争っていう概念は怖いと思うけど、例えば北朝鮮の問題で戦争があるとは思っていない。

しま 現実にも起こりにくいと思います。可能性として、もし起きたら大変なこと。もう最後。でもそこまでは行かないでしょう。

# アンケート「私にとって怖いものは……」中間集計結果 (『あごら』220号挟み込みハガキで実施 1996 9.17集計)

〈内訳〉女90、男9、不明1、計100名

会員54名、非会員43名、不明3名

職業あり(パート含む):53 職業なし(主婦・学生含む):32 不明 :15

10代以下:3 20代:11 30代:14 40代:29

50代:17 60代:13 70代:3 不明:10

※「特に怖い」は、「怖い」の中で◎をつけた数。「怖い」は、「特に怖い」の人数を含む。

項 目	怖い	特に 怖い	項 目	怖い	特に 怖い
1、戦争	77	38	25、農林水産業の衰退	30	1
2、原発、核廃棄物	74	23	27、病気	30	3
3、核兵器、核実験	73	26	28、エネルギー危機	29	1
4、公害(大気・水質汚染他)	70	10	〃 ウイルス、感染症	29	1
5、国家権力、公権力	66	13	30、思い込み、誤解	27	3
6、自然災害(地震・風水害)	55	20	〃 人間の欲望、エゴイズム	27	7
7、差別、偏見、人権問題	51	15	32、犯罪	24	3
8、食料危機、食品の安全	50	7	〃 テレクラ、買売春の増加	24	1
9、軍隊・基地(自衛隊・米軍)	47	12	34、人口問題	22	1
10、ゴミ問題、廃棄物処理	46	3	35、貧困	20	2
11、医療問題、薬害	43	3	36、死	19	7
12、破防法	42	6	37、うわさ、中傷	18	0
13、交通事故、その他の事故	41	8	〃 宗教	18	0
〃 日米安保強化	41	5	39、雇用問題(リストラ、就職難他)	16	0
15、マスメディア	40	2	40、老化	14	1
16、日本の教育制度	38	11	41、高齢化社会	11	2
17、痴漢、性暴力	34	6	〃 人間関係	11	2
〃 今の日本の政治家	34	2	43、借金(クレジット、サラ金他)	9	0
19、生命科学(遺伝子操作など)	33	2	44、パソコン、ニューメディア	8	0
〃 歴史認識の欠如	33	1	45、その他	7	3
〃 いじめ	33	2	46、自分の配偶者	6	4
22、暴力団、ヤクザ	32	1	47、ギャンブル	5	0
〃 モノ万能、拝金主義	32	3	48、イデオロギー	3	0
24、テロ	31	1	49、舅、姑	2	0
25、火事	30	1	50、自分の親または子ども	1	1

〈その他の内容〉今時のティーンエージャー／地球の温暖化／ストレス／人による  
 地球環境破壊／自己否定・無知／ナショナリズム・排他主義／官僚／増税／毛虫／「死」  
 以外は「自分で何とかしなければ」「何とかできる」もののような気がする

斎藤 行かないと思います。そういう意味で、私は核兵器は怖いけれど「特に」には入れない。核兵器はいずれ廃絶せざるを得ない状況になっている。持ちこたえるのが大変だし、もし使った国は世界中から総スカンになる。

しま 斎藤さんがおっしゃったように思っているのに、でも聞かれたら、やっぱり怖いものには入れるという感覚がありますね。このアンケートも「いま身に迫る危険」という言い方をすれば良かったのかもしれない。

## 「軍隊・基地」は、なぜ怖い

沢宮 では、「軍隊・基地」は。

芦澤 二十代は二人ですね。

沢宮 少ないんですよ。で、三十代、四十代になって高くなってくる。

斎藤 戦争をかいま見た世代は、軍隊がなければ戦争はありっこないと思っているから、戦争の卵としての軍隊はすごく怖いと感じる。軍隊は「支配の構造」とも密接に繋がっている。私は、基地も怖い。アメリカの基地があるかぎり、日本

は本当の独立国ではない。首ねっこを押さえられてる。

芦澤 むしろ若い世代は「核兵器」が九人と高いんです。戦争と核兵器が若者の頭の中でリンクしている。戦争は核戦争ということ。

斎藤 核についてはすごい反対運動がありましたし、今も根強く続いています。でも今は核兵器よりも通常兵器の方が、現実的には怖いんですよ。

しま 今度のイラク攻撃にしてもね、ちょうどその時アメリカのミシガン州にいたんですけれど、アメリカでは兵器産業が国を支えているから、それがなくならない限り、「きつと核兵器が増えたから戦争するんだ」って冗談半分に言っていた人もいた。

斎藤 湾岸戦争では砂漠の中にまで無差別に落として、累積した爆弾を消費している。あれで兵器産業を盛り返したんです。今のチェチェンもそうですね。

しま 例えば銃規制がなくならないのは、銃で自衛するといふ考え方も残っているけれど、何よりも兵器産業人口がたくさんいる。そういう団体が選挙の時どうするのか。税収も兵器産業からものすごく入る。政府が銃規制したら政府が支持

されない構造になっている。

斎藤 今回沖縄でも、基地に依存している人たちの投票がもつとあれば、大田知事ももっと頑張れたのに。「軍事力」と「利潤」は、いつも結びついているんですね。

しま 戦争と経済の結びつきなんですよ。

湊 そうですね。

しま 昔の戦争と全然違いますよね、そういう面で。

斎藤 第二次大戦だって第一次大戦だって動機は利潤追求ですからね。昔の村社会の中では、食べたり着たりすることが経済だったし、それには一定の限界があったけど。

## 日本ではなぜ「国家権力」が強いのか

芦澤 二番目は国家権力。破防法など。

しま 民主主義の社会とは思えない形で権力があるんですよね。みんなが自分で力を発揮して意識的に治めるようにリーダーが影響を与えていく、これが民主主義ですよ。

斎藤 日本のリーダーというのは、本質的にはカンボジアやミャンマーとほとんど変わらないですね。ミャンマーはわず

か五十万人の軍隊が支配している。一種の暴力団みたいなのが支配して、ほかの人は武器を持っていないために押さえられている。日本は、そういう直接的な武力支配はないのに、なぜ権力がこれほど人民を抑圧しているのか。

しま 本当は、リーダーシップはどこでも必要でしょう。リーダーシップのあり方がリーダーに責任を全部預けてるという感じと、人々も責任を分けて負っているというのでは全く違う。指導者も問題だけど、私たちも問題ということですよ。責任の分散がない権力だから、怖いんですね。

斎藤 だからこそ「民主主義は巻町と沖縄から学べ」というふうに盛り上がったんですね。でも、大田知事のあの最終決断の裏に、どういう動きがあったのかは不透明ですね。

しま そのへんをマスコミが話題にすることが、封じられているんですか？ もちろん言っていないわけではないですけど。

斎藤 沖縄が分裂しているという印象は絶対与えたくないから、大田さんを立てつつ……というのが、沖縄の人の中にあるのかもしれませんが。公告・縦覧をしても、まだ闘う方法はあるんだから、そこに賭けているのかもしれない。

しま さて、それでは戻りましょうか。国家権力…非常に怖さが見えにくいものですね。

斎藤 見えにくいけど、構造的なものでね。

しま これに気づくには、やっぱり教育と情報ですね。情報の読み取り方。

斎藤 「怖い」ということと「怖さ」というのは別なんです。厳密に定義すれば。

しま 現実には「怖い」とこと、背後の広がりを持った可能性としての「怖さ」……。

芦澤 「へあこしの会員・非会員」という統計で見えますと、国家権力と破防法は、会員のほうが「怖い」という率が圧倒的に高いです。国家権力・公権力に関しては、会員で「怖い」と感じている方が八五％、非会員は四二％。

しま ずいぶん違いますね。

芦澤 これはかなりはつきりした意識の違いだと思います。破防法に関しては会員五七％、非会員は二六％です。破防法については、この間の「安全」ってなかに「の号」にも載せましたけど、事実に関する情報を知れば、読めば、「怖い」ということはわかるんだな、ということがわかりました。

## 気がつかないうちに侵す「情報」

しま 今の会員と非会員の比較で、もしかしたら違うと思うのが、教育とか情報ではないですか。

芦澤 「日本の教育制度」は四四％に対して二六％。マスメディアに関しては五六％に対して二六％です。

斎藤 私たちが自ら勉強しない限り、本当に怖いものを見えなくする構造がどんどんつくられているんですね。

しま そうだと思えますよ。

芦澤 逆に非会員の比率の方が高いのは、例えば「ウイルス・感染症」「思い込み・誤解」です。「痴漢・性暴力」というのも非会員の方が比率が高い。「宗教」「高齢化社会」も高い。斎藤 全部マスコミが書き立てていることですよ。

芦澤 でも「差別・偏見・人権問題」では、「特に」と答えた比率が非会員のほうが高い、という結果も出ています。

斎藤 「特に」を入れないとどうなりますか？

芦澤 入れないと、会員が五九％で非会員が四四％です。

田村 例えば、ジャーナリズムがどれだけ取り上げたかによ

って「怖さ」が増長されている具体的な例として、週刊「読書人」の九月十三日号に「大新聞「O157」報道の奇妙」が載っています。「O157」と「薬害エイズ」についてどれ

だけ新聞が書き立てたか、見出しに取りあげられた頻度を比べているのですが、「O157」が一月半の間に朝日新聞

一、二四二件、毎日新聞一、二二八件、読売新聞七〇九件。

それに対して「薬害エイズ・HIV」は一年半の間に朝日が四三三件、毎日が四六六件、読売が三三一件だったのです。

そこで、「報道内容の質はともかくとして、これだけの膨大なアウトプット情報量が「O157パニック」の大きな原因ではないか」と書いているのですが、ウイルスとか感染症とか言い立てて、パニックに陥れる。一方で、薬害エイズ問題は社会的背景、深刻さが「O157」よりも大きいと思われるのに、その報道が少なかった。一瞬に情報がかめぐる高度情報社会では、明らかにマスコミによって情報が価値づけられる。一月半の報道を検証しても、やっぱり怖さが「創られて」と感じます。

斎藤 パチンコ店で母親がパチンコしている時に子どもが死にましたね。「お母さんが悪い」と言われましたけれども

都内版に小さい記事がありました。東京都内のあるパチンコ店に泥棒が入って、三日分の売り上げが盗まれた。その三日分が六千万円です。ということは、一日二千万ですね。経済面にも、これも小さなベタ記事で「パチンコは、うまくいけば一日の収入が十四、五万」と書いてある。お母さんが子どもを忘れてまで熱中するというのはよくよくのことだと思いましたが、パチンコ店がカードを発行するようになって以来、大当たりがどんどん出るようになったそうです。当たればパー

ト一か月分の収入ですものね。やめられないですよ。

カード発行以来大当たりを気前よく出すようになったのは、カードの偽造機が出来たから。パチンコ店はほとんど全部、自前でカードを偽造しているそうです。カード会社は何百億という損失なんですけど、パチンコ店はいくら大当たり出しても腹は痛まない。——と、久米宏の「ニュースステーション」でやっていました。競馬にも劣らない大ギャンブルを競馬と違って毎日やってる。大変な問題です。だけど「ニュースステーション」が暴露したような報道は全然ないですよ。なぜそれを書かないのかっていうと、パチンコ店に、韓国系と北朝鮮系があり、タブーの領域。しかも警察がそれを

承知で上前をハネているそうです。私は新聞の切り抜きをしていて、特に小さい記事にすごく気をつけて拾っているから、たまたま見つけたのですけど。

それからO157にしても、幼稚園の井戸水から発病した事件は何年か前にあった。新聞社はすごく大きなコンピューターを入れているわけだから、どこでどういうことがあったという情報をデータベースに入れておけば、問題提起も早くできたはず。そういう小さい重要な情報が無視されている。山田 今新聞の隅に小さく載っていることが、数年後の大事件につながるということが、よく言われますね。

斎藤 ずっと切り抜きをしていると、そういうカンが湧いてきますね。これは本当に大事件になるだろうと思うと、そうなる。せっかくの情報なのに、新聞社のチェックが厳しくて、どこかでカットされているのじゃないでしょうか。

しま 三番目の自然災害は確かに恐ろしいことだけど、これこそある程度しっかり予防できるものですよ。

芦澤 これに関しては、会員・非会員はあまり差がないという結果が出ています。

しま 阪神大震災が起る前の段階だったら、もっとこの比

率は低かったでしょうね。

斎藤 でしょうね。日本は「安全な国」という幻想があるでしょうから。まあ交通事故は怖いと思っても、自分がそんな目にあうとは思っていない。

山田 非会員では、戦争の次に「特に怖い」というのが自然災害ですね。

湊 去年の阪神大震災は自然災害ですよ。

山田 アンケートに書いた人はたくさんいます。

斎藤 でも、あれは人災なんですよ。

湊 人災なんですか。

斎藤 米軍や自衛隊に使うお金で防災建築にしていれば死ななくてすんだ人が、たくさんいる。現地を歩いてみて、本当にそれは感じましたね。この前のハビタット（国連人間居住会議）でも、「神戸の災害は人災だった」ということが決議として採用されました。

なぜ「いのち」が守られないのか

芦澤 公害、食料問題、ゴミ問題などは……。



しま 生活・環境・生命というふうにまとめました。意識するとしんないでは、うんと違ってくるという共通点がある。

斎藤 意識しつつも、東京なんて本当は住まないほうがいいってわかっていても住んでるし……。医療問題なんて、これはまさに人工災害ですね。

しま 国家権力とは違う、別の意味での権力の問題でもありますよね。

斎藤 へあごろの会員で官公庁のゴミ集めをしていた人が、「一番高価なゴミが出るのは厚生省だ」って言っていました。実はおこほれにあずかってお酒を山ほどもらったこともあるんですが、トウモロコシとかミカンとか生鮮食料品も季節ごとに何十箱も届く。見向きもしないで捨てちゃうんだそうです。薬の許認可権というのは大きいんですね。

ゴミ一つ見ても厚生省がおかしいというのは昔からわかっていたことですよね。薬害HIVは本当に人災ですよ。安部さんだけが悪いんじゃない。日本の官僚、それを長年支え続けてきた政党まで追及されてもいいと思うんです。

しま 今の暮らし方のままでいいこうと思ったら、解決しないですよ。この生命・環境のことは、質は上げてもいいけ

ど、一般的に普通のことばで言ったら暮らし方を下げるとか。

斎藤 もう戻らないんじゃないですか。

しま 戻ることはダメでも変えられる。

斎藤 その話は、第三ラウンドの「どうしたら守れるか」というところではしゃせんか。

しま そうですね。

斎藤 教育や文化の問題とかは、見えにくいけど基本的な問題ですね。

しま 個人の内から変えるとしたら、まずこれですよ。それから、時間をかけていかなないとダメ。

斎藤 ただ、マスメディアなんて変えられないでしょう。

しま もちろんマスメディアそのものじゃなくて、それを批判する個人をつくるということしかできない。

斎藤 それこそ個人が新しいメディアを作らないかぎり、対抗できないですよ。

しま でも、拒否はできるんですよ。

斎藤 しまさんみたいに、テレビを絶対に見ないとか。

しま 拒否するにはリスクを知って拒否しないとね。リスク

はすごくありますよ。テレビがないから、知っていいことまで知らない。それでも、いいって思っただけで暮らしているだけで。

斎藤 すべての人がそれだけ「個」を確立するのはむずかしいと思うけど、示唆的なお話ですね。

## 都市に多い痴漢・性暴力

芦澤 最後の「痴漢・性暴力」というのは、むしろ、個人的な体験に基づいているという感じがしたんですけど。

しま 自分に体験がなくても、性暴力を広い意味でとらえることはできます。

斎藤 今はマスメディアがどんどん書くようになったから。

芦澤 程度の差はあれ、こういうことでイヤな思いをしている人って、実際に多いんじゃないでしょうか。

斎藤 でも、痴漢にあったことがない人も多いんですね、私は痴漢ってみんなが苦しんでいるものだと思っていただけ。

しま 満員電車に乗らない人は、あんまりやられるチャンスがないですよ。

山田 都市別ではどうですか？ 例えば大都市と、農村部では……。どうでしょう。

斎藤 セクハラは農村の方があると思いますよ。何といっても伝統的に男尊女卑だし。

しま それは戦争ともどこかでからんでいるんじゃないですか。クロスのしかたがいろいろ考えられますね。性暴力の芽になっている男中心が戦争ともからんでいるし、経済ともからんでいる。

芦澤 農村部はサンプルが少ないせいか「痴漢・性暴力」はゼロです。一番比率が高いのは、人口五万人以下の都市で四％ですけど、これもサンプル数が少ないです。

しま 痴漢はともかくとして、性暴力という面ではわかるような気がしないでもないですね。

斎藤 「俺の言うこと聞け」なんていうのは、大企業よりも中小の方が多いかもしれない。

芦澤 一番サンプル数の多い政令指定都市では四〇％です。



## どうすれば自分を守れるか

斎藤 そろそろ第三ラウンドの「危険からどうやって私たちを守るか」に入りたいんですけど。

しま 例えば「パーソナルなことはポリティカルなことだ」って、女性の運動の共有のことばになっている。それが本当に自分の暮らしの中でわかっていて、普段生きるという感覚が出発点のような気がする。「守る」とか言う前に。例えば「これは私の個人の怖いこと」で、その個人の怖いことは政治の、社会のしくみの中にある。そういうことがわかったら、絶対に投票に行きますよね。投票に行ったら変えられるようにはできないけど、でも投票率100%になったら脅威ですね。

斎藤 それと、直接民主制にしたら怖いでしょう。議会制民主主義という名のもとに、本当に民意を反映できないシステムが断固として築かれていて、しかも小選挙区制など、ますます悪い制度になりましたね。

しま その時ね、「ますます悪くなる、でも私は投票する」と

いうふうに、どうしたらなるでしょうね。

斎藤 こうなったら本当の「市民政党」みたいなものを作らなければいけないと思いますよ。

しま もちろんそうだけど、投票に際して白紙投票するとかね。それは意思表示でしょう、一つの。

斎藤 それはネガティブな意思表示だと思うけど。

しま でも、白紙投票がね……そんなことありえないけど、もし五割が白紙だったら政治にとって大変なこと。党は震えあがりますよ、きつと。

芦澤 前に、白紙投票ではなくて、×をつけるということが提案されましたね。

斎藤 最高裁の裁判官には×をつけるけど。ああいうふうに×が何割になったら当選させないとか。

芦澤 どこかの国では「この人はダメ」というのを同時にとるっていう話を聞きましたけど。

斎藤 ドイツがそうだとか、小選挙区制反対運動の時に聞きましたね。でも日本では、×をつけるシステムにしても、田中角栄みたいなのはまた出てくるでしょうね。それは私たちの問題でしょうけど。

しま それを支持する人がいっぱいいるっていう現実でしょう。いなかっただけでもない。

斎藤 それがなぜなのかでことですよ。投票でもしませんが？ ×をつけるようにしたらどうだって。

しま 私たちはやっぱり少数派ですよ。それはわかってること。

芦澤 「該当者なし」って書いて投票するとか。今回はエリアことこの比例代表が一緒という形式ですよ。比例区の方だけ投票するという形も、できることはできますよ。

斎藤 でも、比例区は小選挙区と重複立候補できるという、ヘンな制度なんですよ。だから結局、小選挙区にたくさん候補者を出した政党が比例区でも勝つ。

しま マスコミの話題にすることを、逆手に使うことは必要ですよ。たとえば、×つけようが白紙で出そうが無効なんだけど、こういうふうな×があつたとか、こんな記号が書いてあつたとか、こんな意見が書いてあつたとか、それがものすごく多かつたら話題にせざるを得ない。ただ、ものすごく多くすることは不可能なんですよ。残念ながら。

山田 市レベルの選挙では、開票の時は、入所二、三年目の

若い職員がおしやべりしながら済ませて、「棄権」は自動的にカゴに投げ入れ、数えるだけなのだそう。市のレベルだからそうなのかもしれないですけど、やっぱり白票や棄権よりも、もっと具体的にアピールする方法を考えたい方いいと思います。

しま 新党作ってね、私たちの党で……それは正解だけど、それは私はすぐには成功しないと思ってるんです。だからまず今の制度の中で、×つける運動を同時にやってもいいけど、少数派でやってる運動で、そんな簡単にいっぺんには……。

斎藤 だけど、今は無党派が六〇%でしょう。青島さんなんて最後に立って当選しているじゃないですか。だからみんなが「あの人は」って思う人を立てれば。ぜひ志のある人を立てたい。

しま それは否定してないです。もちろん。

斎藤 名のある人を立てられないにしても、「私たちはこういう動きを支持します」っていう運動もできる。党にはならなくても。

しま それはいいですね。

斎藤 そういう声を山ほど集めて、それこそ全面広告運動を

するとか。そうすれば、みんなが一票を入れる前に考えることになるでしょう。今はこれだけの中から選ばなきゃならないと思うから、消去法で選ぶことになってしまいうけど。消去法で選んでる限りは、世の中良くならないんじゃないかと思う。

どうしたら身を守るか、ということについて、皆さんはどうですか？

## アンケートになぜ答えたか、 答えなかつたか

芦澤 私はむしろ、率直にこのアンケートの結果を見た感想を皆さんに聞きたいんですね。自分の思っていた怖いものとか比べて、どこにズレがあったかとか、皆さん一人一人に聞きたいと思うんですが。

山田 今回のアンケートですが、「怖いもの」というとすごくネガティブな感じがして、「怖いもの」というのは自分がどうすることもできなくて、ただ恐れているというイメージがある。ただ怖がついているだけではなくて、もつと変えるにはどうしたらいいか、今何をすべきかということをもつと中心に

考えたかつたなあと思います。本当に怖いものは、自分がどうしようもないものだと思うんですよ。例えば戦争だとか自然災害とかは個人の力ではどうしようもないですけど、個人や団体の働きかけでこれからどうにでも変わるものっていうのはあると思うんです。

内藤 私はすごい不勉強で、ここで勉強させていただいているんですけど、たとえば「見えない怖さ」というんですか？そういうのをどういうふうに察知するか、っていうのを勉強したいなあと思っているんです。まず新聞を読まなければ……とは思っているんですけど、目先の日常生活に追われてしまって、じっくり読むなんていうのはなかなかできない。どういうふうにしたらいいのかなあなんて、すごく考えているんですけど。

しま じっくり読むように、昨日よりは今日……というふうにはできますよね。できないって、どうしておっしゃったんでしょう。

内藤 できないって、いま無意識に言いましたけど、今までしてなかったということです。

しま 実験的に読んでみたらいいのかな。三日とか。どう変

わるかとか。

沢宮 一番はじめに、田村さんが「怖さの中身について話したい」とおっしゃいましたが、私も同じことを考えていたんです。例えば、戦争は怖いけれども、それが軍隊や基地とは結びついていなくて、抽象的な概念として何となく「怖い」と感じている場合と、そうじゃなくて本当に骨身に沁みて「怖い」と感じている場合。その二つの場合があると思います。自分自身の中にある怖さをきちんと見つめていくことから始めたい。それから核兵器とか核実験だけじゃなくて、通常兵器の怖さについてももっと強調したいと思いました。田中 はがきが二枚ありましたね。一枚を娘に「書いて」って渡したら、彼女は「死」だけだったんですよ。「あとは何とかなる」って言われてしまつて。私は書いてあるもの全部に○をつけようという感じだったのが、例えば戦争だつて、最終的には「死」ですよ。怖いものって何だろう？ やつぱり「死」以外にはないのかな、なんて思つて。そのへんでどう考えていいのかわからなくなつた。でも無理やり○をつけただけで、そうしたらどれもこれもになつちやつた。

彼女が「死以外は何とかなる」って言つた瞬間は、あ、若

いなつて感じたんです。でも、案外真実かな、つていうような気がして。戦争も、自分でどうにかならないつていうわけではない。戦争は国家が起こすんだから、その国家が戦争を起こさないような動きを私たちがしなければいけない。反対勢力が少なければ戦争になつてしまふかもしれないけど。

私は、以前は「怖さ」の前にたちすくんでいた。ただ「怖い」という思いで身動きできずにいた。周りの人と違うことがわかつてしまふ恐怖、そこからはじき出されることへの恐怖、無知をあざけられるかもしれない恐怖のために、本心を隠して目立たない存在、無害な存在であらうとした。それが、どんなに自分を萎縮させ、自分への信頼を失わせていたか。その「おびえ」から一歩踏み出すには、かなりの勇氣と背中を押してくれるものが必要だった。

長い遠巡の末におずおずと歩きだしてしまつと、「怖さ」は少しずつどこかへ行つてしまつた。「怖い」と感じる気持ちになつたのではない。「怖いけれども、やってみよう」「失敗したら、やり直せばいい」に変わつてきた。「怖い」から、それから目をそらすのではなく、「怖い」なら、「怖いからイヤ」って小さな声だが言えるようになった。小さくてもそん

な声が、もつとたくさん集まって大きくなるいいですね。

しま 生きてるか死んでるか、命のあるものの存在形態の違いでしょう。そう考えると、生身でやつぱり「怖い！」のは「死」だっていう感じ方はわかる。

斎藤 もしかしたら、お子さんは死をご覧になったことがあるんですか？

田中 私の弟が、去年……弟と祖母が続けて去年の夏に亡くなりましたから、もしかしたらその影響があるのかもしれないですけどね。

芦澤 ちなみに「死」については、五十代、六十代、七十代と上がるに従って、怖いと思う人が少なくなっていくます。しま もうすぐ死にそうになるほど「まだ死さない」って思うのね。そういうこともある。

斎藤 そうじゃなくて、年をとると、「死」は歩いている道の中にいるんですよ。だから、怖いことではない。それは思ったより早く来るかもしれないし、長い時間かかって来るかもしれないけど、願わくばあんまりくたびれないうちに、適当な時に来てほしいと思ってるのではないでしょう。うか。しま そういう人もいる、でもそれだけではないですよ。

斎藤 たしかに、私自身、以前ガンの転移を疑われて、それが「ガンではない」ということがわかったときに、すごく嬉しかったんですね。自分は死ぬのは怖くないとずっと思ってたんだけど、こんなにまだ生きたかったのかと、我ながら驚いたんです。でも、みんながガンやHIVを怖がるのは、末期が哀れだからでしょう。死ぬということよりも、末期が悲惨だということが怖いのでは。

芦澤 「ボックリ願望」なんていうのもありますよね。

斎藤 そうですね。おばあさんたちが行脚して回ったり。芦澤 今回、十代以下の回答者は三人だけだったんですけど、最年少の九歳の男の子が、「死」に大きく○がしてありました。三人のうち二人が○です。

しま わかるような気がします。子どもだったら。

浅 自分も最初にこれを受け取って「何が怖いかな」って考えた時に、一番初めに「死」を思ったんです。「死」は免れられないし、これは怖いなあと思ったんですけど、でもそれでもチョイスがあって、ガンとかエイズにならないような、そういう医療があるんじゃないかって思ってます。

例えば最近の研究では、イメージ療法でガンのコントロー

ルができると、ガンにならないとか、ポジティブに考えてい  
ればガンは治るとか、そういうのもあるんです。精神医学の  
学会でもそういうことが報告されているんですね。私は朝日  
カルチャーの「やすらぎセラピー」でアメリカへ行つて、ア  
メリカのエイズの人に会つて、お話をしてみても、こういうふ  
うにして暮らしているのだとちゃんと見てきて、エイズには  
死があつて恐ろしいとは思つても、やっぱり治っていく道は  
あるんだつていうことがわかつたんです。

じゃあハガキは出すのやめようかなあ、どうしようかなつ  
て思つて、やっぱり出さなかつたんですね。一応やっぱり怖  
いと思つたのは「死」だったんです。どなたも死んじやえは  
何もできないわけだし。でも長生きすることもあるし……出  
さなかつたといういきさつはこれです。

この表を見て思うことですけど、国家権力とか、公害とか  
あるんですけど、生き方をポジティブにするということ在意  
識が変わつてくると、ずいぶん違つてくるんじゃないかなあ  
と、そういうふうに思いました。怖いと思つていても、ポジ  
ティブに考えようと思つて、出さなかつたんです。それをお  
伝えしようと思つて今日は来たんです。

## 「怖いというところえ方」が問題では

しま さつき田村さんがご意見を出してくださつたけど、「怖  
いもの」と言つても、ものすごくいろんなとらえ方がある。  
素朴な個人として「これが怖い」という感じだったら、怖い  
といえは全部怖いし、怖くないとはいえないけど、それほど  
怖いわけではない。そこで、私は常職的な「あごろ」の一会  
員として、どれが怖いかなつていうふうに自分を規定して書  
きました。でもその規定は私個人を殺してはいないんです。  
私個人が「怖い」という言葉にはならないんだけど、「許せない」  
とか「イヤだ」とか、そういうものにつけました。それ  
で割合権力的なものに対してつけたんです。つまり、私は権  
力的なものに対してもすごく抵抗する。どうしようもない  
ですね、こればかりは。殺されるのは怖くない。それはわか  
らないけど、もしかしたらここへ来て殺されそうになつたら  
「ああゴメン」つて言うかもしれないけど、一応、権力より  
殺された方がまだましだつていう。

斎藤 それはなにか、幼児体験とかあるんでしょうか？



しま わかりません。分析すれば出てくるかもしれない。そんなわけですから、今までもずっとそうでしょう。仕事をぶっ飛ばしたり、捨てたりしてきているわけですから。権力に抵抗するために。——まだ殺されてはいないけどね。

戦争は、怖いのはちよつと違ふんだけど、でもやはりつけたと思います。二重丸をつけたのは国家権力とか、教育の問題とか、マスコミとか、そんなところにつけたような気がします。

田村 私はアンケートをもらった時に、「私にとって怖いもの」とはどういうものなのか整理がつかなくて、どれを選ぶかということが背けなかったんです。というのは、今の社会では、「体制に順応していないと食べていけない、生きていけない、死んじゃうぞ……」という脅しが、暗にいつばいあると思うんですね。脅しを「怖い」と思えばこちらは萎縮し、相手はますますこちらを怖がらせ、いいように扱おうとする。そうすると「怖い」と思うこと自体が、相手側の脅しに、社会にのっかちやうみみたいな気がするんです。「やっぱり戦争は怖いだろう。だから戦争を起こさないように、お前たちを守ってやるんだ」というふ

うに相手方は使いたがる、という感じがしたんですね。

今日の新聞にも載っていましたけど「一九九三年から九四年にかけて、北朝鮮で有事が起こることを前提に、その時に朝鮮半島にいる日本人を救出するために、アメリカと合同で有事作戦をとる計画をたてていた」とありましたが、戦争は怖い、戦争にあいたくない人がいるからそれを守るんだ、という体制側の論理を、「怖い」という気持ちを持つことで補強してしまうんじゃないか。私たちの「怖い」という気持ちはますます煽られていると感じて、私は答えられないなあ……というのが正直なところでした。

恐怖心を持つというのは、もちろん自分の命が脅かされるとか、具体的・物理的なものに関して「怖い」というのはありますけど、例えば何か人との関係とか物との関係で、自分が自らの中に恐怖心を生み出してしまふということがありますよね。それは生理的なものや、観念的なものだったり、いろんなことを含んでいるわけですけど。恐怖心が生まれたときに、そこから自分が動けなくなるといふか、考えることをやめてしまふといふか、そういうものも背中合わせに持っているという気がします。だから正直言つて、まだ自分

の中で「怖い」という言葉で今の社会を見つめて、自分がどういうふうに行動するかを探っていけるかどうかは、整理がついていません。

桑原 私は、何が怖いのか、怖くないのかって感じで、すべてに○をつけてもいいような気持ちで、受け取ってすぐ書いてしまったんですけれども、大体は戦争と、マスメディアと、日本の教育制度、破防法などが自分の中で今一番怖いものというふうに思っているんですね。日本の教育制度を作ったり、破防法を作ったり、マスメディアを動かしたりしているのはやっぱり人間なわけですよ。そういう人がいる、でもどういう人なのか私なんかは知らない。そういうことを知らない自分の怠慢さも怖いんじゃないかと、そういう気がしているんですね。

斎藤 問題点として、「怖い」ということと「怖さ」ということを明確にしておくべきだったと反省しました。自分自身では、権力とかマスメディアとかそういうものが特に怖いと思ってるんですね。戦争には◎はつけませんでした。それは、戦争というものはある程度防止できてると思ってるからです。構造的に見えるものより、何かわからない、見えない、

気がついたときには足を取られたような状態になるもの、あるいはサリンを吸っているながら吸っていないと思わせるような状況が、一番怖いと思いますね。

これを見ましたら、（あ）この読者ならば多分こういうものに○つけるだろうなあという結果が出ているように思いました。もうちょつと回答があるかなあと思ったんですけど、回収率が悪かったのは残念でしたな。「字が小さかったかな」とも思いました。自分で書いてみたらうんざりするほどで。

これは、もっとたくさんの人にアンケートを取りたいですね。千人くらい取って、一つの物申すタネにしたいと思っています。初めは学校の先生方にも何千枚か送って書いてもらいたいと計画してんですけど。政府の言っている怖さというものにマスメディアが見事に追隨して、批判勢力にならないのが怖いですね。

## 自分の心にひそむ「怖さ」

芦澤 このアンケートのワープロを打ったのは私で、五十項

目に絞るのにかなり苦勞をしたので、私としては精選した「怖いもの」だと思っています。作成した本人としては、全部怖いから載っているという気持ちです。

私は昨日まで「毒ガス展」に参加していたんで、化学兵器も載せればよかったなあと痛恨の極みなんですけれども。化学兵器って、考えようによっては核兵器よりもっと怖いんです。日本軍に遺棄された毒ガス弾なんて、いまだにどこに棄てられているか、何がどのくらい棄てられているかはつきりわかってないから、全然そんなことを知らない中国人の普通の人々が、何だかわからなくて持って帰って開けてみたら毒液が入っていた。それでものすごい被害が起こって……ということがあちこちであって。核兵器の場合はそのへんに転がっているということは絶対にないわけですから。

斎藤 化学兵器は入れるべきでしたね。核兵器だけを強調しすぎていたのでは、という気がずつとしていたので。

芦澤 でもそれは、反核運動が必要じゃないということを言っているのではなくて……。

斎藤 もちろん必要じゃないってことではない。あれだけの反核運動があつたからこそ、核兵器もここまで縮小されたと

思いますし、反核運動は今後ますます必要です。ただ、核にばかり収斂するということは、日本が被害国というイメージにつながっていくとか、さまざまな問題点があるんじゃないでしょうか。

芦澤 毒ガスのことばかりで申し訳ないですけど、一週間の会期中で証言者が現われたんですよ。「実は……」とかって話し始めるんですね。ですから、戦争で受けた傷というのは、加害者にしろ被害者にしろ、言い出すにはものすごい勇氣が必要なんだな……と思いました。やって良かったと思うのは、きっかけがなければ話せなかった人たちのおかげで、新事実が明らかになったということです。

このアンケートの結果について言えば、私はもつと「その他」が多いかと思っていたんですね。みんな急いで書くから「その他」まで手が回らなかつたのかと思つたんですけど、で、「その他」の中に「無知」というのがあって、「そうだ！無知は怖い！」と思つたんです。毒ガスのことでも「もつと知ってもらいたい」って……。

斎藤 毒ガスを勉強したら、すぐ「毒ガス毒ガス」というふうになりがちだけど、同じくらい通常兵器だって怖いんだ

し、被害者だって山ほどいますよね。

芦澤 毒ガスの怖さは今回勉強してよくわかったんですけど、毒ガスが怖いというよりは「知らないことが怖い」ということをむしろ思っただけ。いつ、どういう形で被害が表面に現われてくるかわからないという、その潜在性がすごく怖いですね。

斎藤 化学兵器は米軍の基地にはすべてに置いてあるんですものね。

芦澤 横田基地でも演習をやっているし、あるということとは事実なんですよね。

これを全体的に見て思ったんですけど、自然災害とか火事というのは、どうしようもないところがありますけど、大概のことは「人間の心」から起こってくるものなんだな、というふうに思いました。戦争そのものよりも、それを肯定し、それをやりたがる人間の心が怖くて、核兵器もそれを使いたがる人間の心が怖い。そういうことがすべて人間の心から起こってくるということが怖いし、そういう心が多分自分の中にもあるんだろう、ということがやはり非常に怖いという気がします。まず自分の中から克服していくというか、やつぱ

り個に帰っていくのかな、と思います。そういうことをどのように人に伝えていくかというのが問題で、毒ガス展の話に戻るんですけど、「毒ガス展に来てください」と手紙を書いて友達に送るとき、「この人なら興味を持ってくれるかもしれないな」という人しか送ってない。そうすると広がらないという気はしたんだけど、やつぱり「送っても来ないだろうなあ」と思う人には送らないです。ある程度自分の中にも「言ってもわからない人には言わなくてもいいや」「みたいな気持ちがあつて、それも「怖いもの」の一つかもしれない。しま その場合の「心」というのは、確におつしやるとおりだと思ふし、わかるんですけど、抽象的に「心」と言っているわけではないんですよ。物のように……物とは言わないけど、いろんな条件とやりとりしているわけよね。物々交換ではないんだけど、暮らし方によって心ができるでしょう。だから、暮らし方と心の間の交換がいつもあるわけでしょう。それが「怖さ」をつくっていく。だから「心が怖い」という言葉を使うときに、非常に抽象的に使ってしまうと意味が伝わらないというか、また逆に体制側には都合のいい言い方にもなってしまうから。

芦澤 だから、戦争が怖いということよりも、戦争を肯定する気持ちほどこれから来るのか、というところを考えたほうがいいのかなあと。

しま 肯定させる条件がどこから来ているのだろうってね。

芦澤 どの項目にしてもそういうアプローチをしていった方が建設的かもしれないという気がします。

斎藤 それにしても「危険」は社会のあらゆる局面にも、自分自身の心にも満ちあふれている。軍事に限局した「防衛庁」をやめて「安全省」でもつくって、あらゆる危機管理を考えることが必要なのは、と思いました。

しま そのほか、どんな方法があるか、あと十分間だけ話しましょう。

斎藤 私は、私たちがシステムを変えられる一番いいチャンスが選挙で、それに対して何をしたらいいのかということをお話したいんですね。私たちにはそれができるんじゃないかかと思えます。今度の選挙で、もし今の状況が固定化したら、私たちはもう立ち上がれないんじゃないかと思って。

沖繩の問題も、もしこれで選挙に勝てなかったら、あれだけの住民の声が全部葬られてしまう。「このままでは百年こ

の状況が続く」と、みんなが立ち上がった。あの声を生かすために、最後まで今度の選挙のために努力してみませんか。ただ怖いものを羅列しただけでは、何のためにこの話し合いをしたのかがわからなくなってしまうね。

しま それはもちろんそうですね。自分の感じ方の中にある怖さの発見と、外部世界の事象として怖いものの両者を分けて、その対応を考えてみると、さまざまなパターンが見えてもう一步深まるんじゃないか。たとえば、素朴な意見を言わないとか、まわりの人と同じだと安心という観念とか、それらを「怖さ」と認識できると、「権力の怖さ」を突き崩していく手だてが繋がって見えてくるような気がします。

そんなことも次回話し合ってみたい。

◆「自立の心理学」は毎月一回、二時間ほど学習会を開いています。今回は十月十六日（水）夜七時からです。場所は東京・新宿の「へあごら事務局」。地下鉄丸の内線「新宿御苑前」大木戸門口を出て、新宿通りを左に五十メートル、「緑苑」という喫茶店のあるビルの三階三〇三号。参加費は五百円です。飛び入り大歓迎。お気軽にご参加下さい。

# 総選挙に女性の風を！

## ―二人の〈あごろ〉会員が立候補

沖繩が降りた、と見ると、たちまち宣告された解散。

この日を待って、準備万端足りなかった党もあれば、完全に立ち遅れた党も。

その中で、二人の〈あごろ〉会員が総選挙に立つ。

「女性は立候補さえも難しい」と言われる小選挙区制。その中であえて立つ二人は、どちらも市民派。信念の人。

地元の方はもちろん、その地域に友人、知人のいる方は、ぜひ応援して下さい。

### 岡崎宏美（ひろみ）さん

兵庫3区（神戸市須磨区・垂水区）

小選挙区制が国会で強行採決されようとした時、党議に反

して敢然と青票（反対票）を投じた岡崎ひろみさんは「決して

変節しない人」。その後、社会党からは「反乱分子」として

差別を受け続けたが、どんな弾圧の中でも、護憲の旗印は降

ろさなかった。

栗原君子さんたち、筋を貫いた五人の国会議員は、三月に社会党を離党、「新社会党」を結成したが、マスメディア各社は情熱あふれる結成式を取材しながら、ほとんど一行も記事にしなかった（「あごろ」216号四〇ページ参照）。

国会解散、選挙予測が毎日報じられる中でも、「新社会党」はメディアに完全に無視されている。共闘するはずだった市民の立ち上がりは遅く、新社会党の名が災いして一般市民の

感触も鈍い。

「新しい社会を創る」という意味の、新社会党、なんですけどね。ネーミングがまずかったかな。大苦戦です」。

大苦戦と言いながら、ひろみさんの表情は明るい。「風立ちぬ。いざ生きめやも」とでもいうように。

阪神大震災を乗り越えた神戸っ子は、弾圧の中で変節しなかったように生一本のたたかいを挑む。

\*

戦争への道を突き進んでいった、わずか前の歴史。今もその責任の所在をあいまいにしている日本という国。真摯に歴史に学ぶことが、新しい時代を怠りなく生きていく道を創る。国の内外に残されている侵略戦争の被害をほりおこし、加害責任を明らかにすること、癒されることなく放置されてきた傷に謙虚に補償の道を拓くことから、信頼はようやく生まれ。新社会党は、内外の告発の声とともに歩む。

今日なお、さまざまな人や集団が「少数者」とされ、差別に苦しめられている。国が、支配する者たちが、明らかに政策的に意図的につくりだしてきた少数者である。多数の側に

あると思っている者でも、会社のために過労死するように、人間らしい生活をおくる基本的な権利は奪われている。単身赴任、賃金差別、不安定雇用、当然のようにつづく解雇などのように、差別された者が、傷ついた者が、声をあげ、闘いをひろげなければ、何も変わらない。権利は、闘いを通してだけ確立される。新社会党は、その闘いの担い手となる。

女性の権利は基本的人権である。女性に対する暴力は、人類に対する犯罪である。女性たちは、社会的、経済的、文化的に、あらゆる面で人権を闘いとうと立ち上がる。平和をつくりだすうねりであることに確信を持ちながら。

私たちは、少数者への、女性への、子供たちへの、高齢者への、障害者への、どんな差別と抑圧に対しても黙ってはいない。新社会党は、人権のために闘う。(後略)

\*

三月三日、ひろみさんが朗々と読み上げた宣言文の文案は、ひろみさん自身の筆に成るといふ。いつも自然体でさわやかに、しなやかに、信念を貫くフェミニスト。

この人を決して落としてはならない。

## 〈岡崎ひろみさんへ一問一答〉

1、次にあげる選挙の争点についてのお考えは？

### (1) 沖縄・安保問題

軍事同盟としての日米安保条約は不要です。まして、再定義され拡大される安保など、アジアの人々にも、日本にとっても、沖縄県民にとっても有害無用です。新社会党は安保条約を解消し、日米平和友好条約の締結をして、真の友好関係づくりをすべきと考えています。その一步として、沖縄の基地を縮小・撤去すること、住民の生命と権利を守るため地位協定を大幅に見直すこと、基地のトライ回しをせず、本土にある米軍基地も整理、縮小することを追及します。

### (2) 消費税引き上げ



引き上げに反対です。来年四月から五%へとアップすることとを、国会で審議することなく決定しました。消費税は応能負担という税の原則に背き、低所得者ほど重い負担となる逆進税です。現在三%で消費税の税収は七兆五千億円。こ

れに代わる財源は、所得税・法人課税などの累進制を強化し、不公平税制を正す。防衛費を当面五年で半減する。公共事業の見直し。不要不急の補助金などの整理等々。総合的な改革で生み出すお金で、消費税は廃止できます。

### (3) 国家財政再建・景気回復

まず、膨大な赤字発生の原因を明らかにする。その上に立って、マクロ成長率維持型の大規模公共事業中心政策を見直し、福祉・教育・環境優先の地域密着型社会政策への投資、長期安定型経済への転換をはかります。国民の暮らしは後回し、大企業優先政策、企業中心のシステムを、公正で民主的な経済社会へと転換させていくことが必要です。地域密着型政策への投資によって、雇用を創出し、応能な負担と、個人消費で、経済活動を活性化させることができると考えます。

### (4) 行政改革と金権腐敗政治打破

政治腐敗一掃の声は「政治改革」の名の下に小選挙区制導入にすりかえられてしまいました。新社会党は政治腐敗防止法の制定、企業・団体からの政治献金廃止、公務員のあつせん利得罪の新設などを求めています。そして、情報の公開です。省庁の統廃合がいわれていますが、働いている人にし



わよせした公務員の大幅削減をして、中央集権体制を維持したままでは何も変わりません。行政情報の公開を徹底し、政策立案、実施、評価のすべての段階に市民が主権者として参加できるような改革を求めています。

## 2、女性政策についての抱負は？

女性の権利の確立は日本の民主主義の問題です。日本社会に根強い男性優位の慣行と、それを利用する企業社会の体質を変えなければなりません。そのために①男女雇用機会均等法を男女雇用平等法に。また、女子保護規定の撤廃は女性が働き続けることを困難にする。まずは男女ともに社会も家庭も担うための労働条件の整備を。②パート労働者の権利の確立。③差別を温存している民法の改正。④男女平等意識向上のための教育……等々と合わせて女性の政治参加の促進を図っていきます。

## 3、そのほかに選挙公約としてかかげる事項は？

厚生省が考えている介護保険は「誰でも、いつでも、どこでも必要な介護が受けられる」という福祉の大原則を否定し、「負担あってサービスなし」が危惧されます。私は市役所で十九年間、年金の仕事をしてきましただけに、この問題は心

配。保険制度の導入に反対し、介護は公費で行なうこと、身分保障や待遇が確立したヘルパーや看護婦、施設を大幅に増やし、人権保障と自立支援という基本に立った制度を要求します。適切な仕事と予防医療によって「寝たきり」を生みださない努力は、介護や医療コストの相対的低下にもつながります。老いても生きがいを持って生きられる社会は、誰にとっても健全で、あたたかな社会です。そういう社会づくりをめざします。そのために、目前の総選挙で、総保守体制に風穴をあけましょう。

岡崎トミ子さん

宮城1区(仙台市青葉区・太白区)

民主党結成の立役者として、堂々と美しい姿をテレビで見ただ方多いと思う。

一九九〇年、おたかさんの要請で立候補、初当選。たちまち五段階特進で社会党の女性・市民局長に。九四年、村山政権下で文部政策次官。いじめやエイズ教育に取り組んだ。

ひつつめ髪を後ろで一つにまとめた豊かな長身。よくとお

る美しい声。旧社会党時代、党を代表する「スポーツ・ウーマン」として活躍。あ、あの方、と、きつとみんな思い出して下さったでしょう。

……という、根っからの党人のように思われがちだが、もともとは市民運動出身。二十年前『河北新報』の大槻壽子さんが「女子だけの定年差別」を訴えたとき、「河北」の労組が支援しないのに憤慨。当時、兄弟会社『東北放送』のアナウンサーだったトミ子さんは、同僚たちと労組や市民を動かす、ついに勝訴した。「涙もろく、義侠心あふれる人」という、当時の印象は変わらない。

元来は市民派だけに、突然社会党の幹部に昇進して、ご本人も「ゆれ動く社会党」の中で、さぞ苦悩されたことと思う。「変心する社会党」に、私たちが文句を言いくと、「全く



同感。党内で努力します」。紋切型ではなく、多分、努力なさったと思う。だから、民主党から、一番に誘いの手がのびたのだろう。

アンケートをお送りしたら、

すぐお電話があった。いつもにもましてつやのある声だった。民主党旗揚げ。新しい希望に燃えたはずむ声だった。「おめでとう！」の言葉をきくと期待しておられたと思うが、「民主党の綱領はいいけれど、山花・赤松さんが中枢ではどうしても抵抗がある……」と、私は率直に答えた。多分、失望なさったと思うけれど、「市民のナマの声が聞けてよかった」と、トミ子さんは、さすが政治家だった。

民主党の看板の一翼を担って、社会党時代と同じように、これからもきつとジレンマに苦しむ時がありだろうと思う。しかし、民主党を良くする力の一つとして、トミ子さんには頑張ってもらいたい。あの河北闘争で芯を貫いたように——。貴重な女性衆議院議員の一人。これからこそ、おトミさんの本領がある。

(岡崎トミ子さんにも、岡崎ひろみさんと同じ一問一答を出しました。今日は出します、今日は……とおっしゃりながら、とうとう入稿までに原稿が来ませんでした。新党の立役者、超多忙なのでしょう。残念ながら掲載できなかったことをお詫びします。)

(斎藤千代)

# チェチェンで何があったのか ——反戦で結ばれた母親たち



左がチェチェンのマディナさん、右がロシアのマリアさん

チェチェンをめぐる報道は、ロシアの大統領選もからんで、最近にわかに各紙をにぎわすようになった。が、その真実はほとんど伝えられていない。

〈あごろ〉ではチェチェン紛争に徴兵されたロシアの兵士のお母さんたちが息子を取り戻しに行った話を昨年六月の208号で紹介したが、その現地から、ハチェチェン母親協会Vの代表と、チェチェンの女性と手を結んで平和運動を続けているハロシア兵士の母親委員会V代表、そして五年間、チェチェンで平和運動を続けているハ日本山妙法寺Vの寺沢上人が、ハ市民平和基金Vの招きで来日された。

八月十五日・江戸東京博物館、二十四日・文京シビックセンター、二十八日・渋谷アイリスでと、三回にわたってお話を伺ったので、ご紹介する。

（主催は、一、二回目がハ市民平和基金、三回目がハ婦人民主クラブでした。）

# チエチエンの問題は 全世界・全人類の問題

寺沢 潤世

チエチエンについてお話ししたいことは山ほどありますが、私なりの気持ちをかいつまんでお話ししたいと思います。

チエチエンというのは大きな国のように思っておられるかもしれませんが、面積は岩手県より少し大きいくらい、人口はわずか百万そこそこの小さな国です。そこに目を覆わずにはいられない悲劇が起りました。フランスの人道援助団体、△国境なき医師団▽は、つい最近のレポートで、このチエチエンの戦争を、かつてない残虐非道な戦争と表現しています。私自身もたびたびこの紛争地へ出かけまして、同じ思いをいたしております。国連で定められたあらゆる国際条約、国際法、それからロシアの憲法、そのすべてを蹂躪して行われ続けたのがこのチエチエン戦争です。

## ナチス以上の残虐が行われた

すでにこの小さな国に住んでいた全人口の半数以上が家を失い、財産を失い、身内の者を失って難民となっております。死傷者は正式公表では三万人といわれていますが、ほぼ六万人以上でしております。その八割、九割までが女・子ども・老人・一般市民です。

その戦争の攻防ですけど、私も度々みずからの目で見て、また逃げてきた避難民からも聞いた話ですけれ

ど、それはすさまじいものでした。ほとんどの村や町が全滅してしまいました。小さな村に一般市民がまだ生活している中をロシア軍が包囲をし、女を犯し、物を盗り、そのあげく、女・子どもごと火焰放射器で焼きつくすといったことを繰り返したのです。

空爆と砲撃にも、核以外のあらゆる新兵器が使われました。△国境なき医師団Vの人も、「病院も爆撃の標的になり、手術の最中に患者、医者、看護婦七人が犠牲になった」と、その凄惨さを話していましたが、ナチスドイツ以上の暴虐が加えられたのです。

モスクワを通じて流される世界のチェチェン戦争に対する報道、情報はたいへん片寄ったものです。あらゆるかたちでの挑発と情報操作を重ねた後に、国際的なジャーナリストや援助団体の目の届かないところで無差別の大量殺戮が続けられました。

このチェチェンの小さな国に起きている問題、それは日本に住んでいますと、はるか遠くの離れた国のたいへん野蛮な戦いという印象しかもたれないかもしれませんが、実際このような戦争が起き、白昼堂々と戦争犯罪が一年八か月にわたって繰り返されながら、まだ一部の遠いコーカサスの小さな国の出来事としか世界はとらえていない。そこにも本当に深い問題があるように思われます。

ベルリンの壁が崩壊し新しい世界が始まる、そういう希望に燃えた一時期というものは湾岸戦争以来全く消し飛んでしまいました。いまチェチェンで起きている問題はそのまま今日の世界のおかれている状況、これから世界人類がどこへ向かおうとしているかという極めて本質的な問題をそのまま表しているように思われてなりません。

残虐な行爲が行われているが、単なる民族紛争や局地紛争である、というとらえかたでなくて、即、全人類の問題に関わる、極めて現代の人類社会のおかれている根源に触れる問題であるということを、皆さんに提起したいと思います。

## 人間の素手で戦争を防ごうとしたチェチェンの人びと

この戦争の残虐さ非道さは描写してもし尽くせないものです。チェチェンの人たちが受けている苦しみ、それもまた言葉では語り尽くし得ないほど悲惨な状況におかれています。その中で市民、特に女性が、文字どおり身を挺して戦争を阻止しようとした。あとでマリアさんやマティナさんが直接みなさんに訴えられると思いますが、この一年十か月の戦争中、ほとんど世界には伝えられなかったかもしれないですが、世界から切り離されたような中で一般市民の小さなグループの孤軍奮闘の平和を築いていく動きが絶え間なく続けられてきたのです。

例えばロシア軍がチェチェンに侵攻する直前に、チェチェンの町や村の住民は何十キロにもわたる人間の鎖を作って大軍のチェチェン侵攻を防ごうとしました。戦車が村に迫りますと、長老や子どもたちまでが戦車の前に立ち塞がって村に入るのをすべて阻止しようとした。そういった動きに対してロシア連邦軍の指導者たち、あるいは最前線にある指揮官たちも、そういう一般市民の素手で立ち向かう訴えに心を動かされて、戦闘行為を拒否するという動きも当初はございました。

紛争が勃発した直後はグロズヌイの攻防を中心として、ベトナム戦争以来という、たいへんな爆撃が行われました。湾岸戦争のときはピンポイント爆撃、きれいな戦争といわれましたが、グロズヌイはまさしくまともな建物が一軒も残らないほどのじゅうたん爆撃で、一般市民が住んでいる其上に落ちてきました。だれもそんなことは夢にも思っていないませんでした。ほとんどの市民はまだ逃げていなかったんです。

そういう猛空爆が起きる前にたくさんさんのロシア軍がグロズヌイに送り込まれました。戦闘に送り込まれたのは、徴兵で軍についたばかりの二十歳前後の若者のロシア兵でした。彼らは「グロズヌイに行った人道援助の人たちがチェチェンのゲリラに取り囲まれて苦しんでいるからそこに行って助けろ」という命令を受け

てチェチェンに急いだ。それはウソの命令だったんです。地図も持たずに、どういう作戦かも知らずに送り込まれたこの若いロシア軍の兵士たちはほとんど全滅しています。数千人が死んだと伝えられます。私も指揮をしたロシア軍の師団からその状況を聞きましたけれど、自分たちも忍びないほど、送り込まれた若いロシア兵はほとんど全滅したという。しかもそのロシア軍の死体は一月以上も放置されていた、と司令官から聞きました。犬などが食い荒らし、見るに忍びない状態だったと、奇跡的に猛空爆の中を生き延びて逃げてきたグロズヌイの難民からも聞きました。

## 母親・女性・NGOが必死の抵抗

こうしてロシア兵士たち、とくに若い初年兵が軍隊に奪われて、なんの目的もない戦争でむざむざ大死にをしてその数は数千に達したのですが、政府の公表は十人とか二十人とかで全くウソの公表が続いています。それでもチェチェン側からたいへん膨大な死傷者がでているということが伝えられまして、ロシア兵の母たちが立ち上がりました。この経過は『あごら』208号に詳しく出ていますが、自分の息子が、まったく消息を絶った人、行方不明になったり、捕虜になったと伝え聞いたお母さんたちが集まった。シベリアやアルタイ山脈、そういった僻地からまで、お母さんたちが自分の息子の安否を気遣ってモスクワに集まってきました。そのお世話をずっとされておられたのがマリア・キルバツワさんが設立したヘロシア兵士母親委員会です。マリアさんはずっと先頭にたって指導しています。そして、息子を取り戻しに戦地まで出向いたお母さんたちの反戦行動は、ほとんど今日までたゆまずに続けられています。

反政府行動はたいへんな妨害を受けてきましたが、そんななかをNGOの人権委員会も活動が続けてきました。チェチェンの戦場に身を挺して、そこで行われている人権侵害、戦争犯罪を訴えました。チェチェンの男性たちが何の理由もなく不法に連行されて強制収容所に送り込まれ、どんな拷問を受け、虐待を受けた

かをつぶさに告発しました。半死半生の身でも戻ってくるのは幸運な人で、たくさんの方はそのまま二度と戻っていません。行方不明の男性の数は数千人。五千人、六千人という人が不法に連行されたまま二度と戻っていません。消息を断っています。NGOはそういう情報を集めて世界に伝える仕事をしています。

欧米の宗教団体や人権団体などもロシアのNGOと協力して、国際メディアにはのらないチェチェンの戦争の本当の実態、本当の情報を世界に伝えるために健闘し続けてきました。もちろんロシア政府の情報操作はたいへん巧妙なものです。真実はやがてウソの報道を覆していくとは思いますが、そんな猛烈な情報操作・情報戦争のなかで健闘し続けているのは、わずかなジャーナリストです。そして、そういう命を挺したジャーナリストのかたがたの活動を支えているのが、NGOの人たちの情報収集です。情報収集だけでなく、正しい情報を世界に伝えるという活動のために今日まで頑張ってきている人が多いわけなんですが、まだまだ力及ばず、チェチェンの戦争の本当の真実、その根にあるもの、全人類的、現代的な問題は、まだまだ世界の人びとには、まして独裁者側には認識されていないように思われます。

## 今や全世界がダブルスタンダードの時代に

もうひとつ、湾岸戦争でよく使われた、ダブルスタンダードも横行しています。欧米社会の力の政策で、国際社会の国際原則がねじ曲げられて、一方では適用するけれども他方では適用のレベルが違ふといったことが頻繁に行われました。湾岸戦争のときに欧米社会が使った二重の規範、ダブルスタンダードが、そのまま、今では世界のメディアにも通用しているのです。

北京の天安門広場の虐殺、それはたいへんなことですけれど、そのときに世界の世論は激しく糾弾しました。一方、チェチェンで一年十か月にもわたって天安門の虐殺の数十倍の一般市民の虐殺が行われながら、それは一面に踊り出ることはありません。チェチェンの人たちがギズラーで人質をとって立てこもったとい



う問題があつた時にはそれはたちまち世界中でトツプに踊り出しました。ですから世界中の人たちにはチェチェンの人たちはテロリストだというイメージだけが先行してしまいましたが、あのペルボマイスコエの村の人質奪回では、ロシア軍が殲滅作戦を行なつて、村の人も人質もチェチェンのゲリラたちも一掃する猛攻撃を全面的にしたというのが事実です。しかも、そういう攻撃は日常茶飯事で、チェチェンの全部の村で行われている。それは全然紙面に出ることはありません。マスメディアの姿勢さえもダブルスタンダードになっているのです。

もうひとつは民族自決ということで、戦後国連ができて植民地から独立していくことが重要な国際原則の一つでありましたが、そういう原則のもとで独立してきたアジア・アフリカの新興独立諸国さえも今やダブルスタンダードで、チェチェンでいま問われている問題に対してはほとんど沈黙を守っています。ダブルスタンダードというものがもはや世界のメディア、西欧社会の価値観、そして戦後独立したアジア・アフリカ諸国の政府にまで拡がってしまっている。メディアを通して伝えられた情報と、現実の間に起きている事実の間にたいへん大きな乖離が生まれているわけです。国連憲章、いろいろな国際法や人権法、国連総会の決議などで定められた原則と実際起きている現実との間に埋めがたい溝ができています。それを深く問い直すという風潮がいま失われている。そこにたいへん危ない、深い問題を感じています。

## 紛争は猛烈な資源獲得戦争が根因

もうひとつ、このチェチェン戦争は二十一世紀に向けた世界資源の覇権戦争です。チェチェンは大国の生き残りをかけた資源獲得戦略の焦点にある。コーカサスはそのような地理的位置にあるのです。湾岸戦争で、超大国であるソ連が大国の地位から落ちてしまつて、アメリカの一極支配体制ができましたね。湾岸の石油資源のほとんどはアメリカのコントロール下におかれた。アラブが分断されることによってソ連の中東政策

も破綻してしまいます。そういう流れの中から、実はソ連崩壊後のコーカサス、中央アジアの石油資源、それからもうものの天然ガスや貴金属をめぐって、ここは資源獲得のたいへんな激しい勢力圏になっています。ロシアの改革も、実は西側諸国が二十一世紀を左右するこの膨大な地下資源をイスラム圏に置かせないため、なんとしてもロシアのエリツインの改革を成功させたいという願望、ロシア圏の中にコーカサスと中央アジアの資源の利権を保持したい、そういうことが底流に流れているんです。ロシアはコーカサスのほとんどをロシアの影響下におきましたけれど、それに真っ向から立ち向かっているのが、わずか岩手県の面積のチェチェン。そういうふうにとらえていただく必要がある。

なぜ国際世論が、西欧世界が、このエリツインの無謀なチェチェン戦争を今日まで黙認してきたかということの背景に、そういう動機を否定することができません。

## 崩壊ソ連の汚職隠しも動機の一つ

もう一点は、冷戦が終わり、ソ連が崩壊し、東ヨーロッパに駐屯していたソ連軍がロシアへ戻っていく過程で、ソ連の軍の中におけるたいへんな汚職構造が出来てきまして、マフィアが生まれました。そしてたくさん軍事物資やソ連軍の財産が私有化・横流しされていった。そういう犯罪をうやむやにしてしまうひとつの動機としてもチェチェン戦争にロシア軍が突っ走っていくという原因があります。

そしてその構図は今日まで続いています。チェチェンで膨大な戦費が使われています。一日の戦費がロシアの今日の一年間の教育費に相当しておりますので、チェチェン戦争ですでに二百年分の教育費が使われてしまっています。去年IMFからロシアへの六十億ドルの供出もこの戦争で消えてしまっている。そういう現状にあるわけです。そしてロシアは武器輸出国としてついにアメリカを抜いて世界一位になりました。軍がひとたび法のもとから外れ、権力秩序から離れて暴走したとき、軍と軍需産業の権益を守ろうとする力

がどれくらい大きいものかということが、いまチエチェン戦争ではつきり現れています。そういう問題の側面も実は存在しています。私はチエチェン戦争を継続して眺めながらこういうことを痛感しております。

## 正義と愛と勇氣に満ちたチエチェンの人びと

もうひとことだけ申しますと、チエチェンの人たちがどういう人たちか、ほとんど世界には伝えられておりません。テロリストだとかマフィアだとかというイメージだけでチエチェンの人たちが知られています。私は世界中を行脚して回っている宗教者として、いろんな国の人たちと接した中で、チエチェンの人たちというのは人類の精神文化の宝だと思っています。現代社会、現代文明がほとんど忘れかけた人間の本当の価値、そういうものが精神文化として本当にすばらしいかたちで残っています。チエチェンの人たち一人ひとり、男の人も女の人もすばらしい人たちです。すばらしい文化をもっています。本当の人間の誇りをもっています。一人ひとりの人間を大切に、そういう共同社会のすばらしい伝統に生きている人たちです。そしてイスラムの立派な信仰、深い愛で結ばれて、この超大国の鉄の嵐といつてもいい猛攻にさらされながら、今日まで敢然として、自由と平和のために立ち上がっている。そういうチエチェンの人たちの民族の文化の真価というものもみなさんに知っていただきたいと思っています。

少し長くなりましたが紹介としてお話しさせていただきました。これからお二方にお話をさせていただきますが、もう一度申し上げますけれども、この形容することもできないすごい戦争、そのなかで素手の市民たちが立ち上がって平和を築こうとしている、しかも女性の方が主軸になっていることを強調したいと思います。チエチェンでもロシアでも、いま女性たちの動きというものはめざましいものがあります。本当に頭が下がる思いです。では不思議な力をもっている女性の中でも代表的なお二方のお話を聞いていただきたいと思ひます。

# ロシアに対する国際的資金援助が惨劇を拡大した

マデイナ・マゴマドフ

こんばんは。……とてもありがたく思っています。温かく迎えて下さってありがとうございました。私はスピーチを始めるにあたって私の祖国チエチェンで何が起っているかをお話したいと思っています。

チエチェンの危機はその国の人びとが国際法に基づいて民族の権利を主張したために起こったと私は考えております。そういった国際法に基づいて民族の権利を主張したために起こった戦争ですけれど、背後にいろいろ問題を抱えております。最初に、チエチェンはどういう所かということから、お話しします。

## 百二十万の人口が五十万に減った

まず初めに平和に生きる権利についてみてみましょう。

チエチェンの人口調査によりますと一九九二年十月における人口は百二十万人となっています。六十八民族が住んでおりました。現在では約五十万人が残っている、住んでいると認められております。七万五千人が殺されました。約五十万人が避難民になりました。五千人から六千人が不法に逮捕されました。二万人が負傷しています。

チエチェンには三百の村がありました。五つの都市と十七の州都市がありました。シャニーという名前の州都はロシアのなかでも最も人口の多い州都でしたが、十四の州と五つの市、二百五十の村がほとんど破壊されました。生き残った住民も住居を失い、難民になりました。そのうちの四つの地区は百パーセント破壊

されました。

こんどは労働、職場についてみてみましょう。九二年には、チェチェンでは五二―五四パーセントが就業していましたが、戦争でほとんどの職場が破壊され、住民の働くところはありません。

学校は小学校、中学校、幼稚園を合わせて千三百二十四ありましたが、そのうち八五パーセントから九〇パーセントが破壊されました。

宗教関係では、戦争の前は二百八十四のイスラム寺院と四つのロシア正教会と三つのユダヤ教会がありました。現在は、いかなる宗教関係、また文化関係の施設も残っていません。百パーセント破壊されたわけです。

こういった数字は、チェチェンでどのような行為が行われていたか、人権の侵害が行われていたかを鮮明に示していると思います。

経済・環境についても、国際法に定められていることがすべて破られたと思います。

いろいろな写真が示しているとおり、例えば化学・生物兵器が使われました。侵略された村々はベストや赤痢、その他いろいろな伝染病で人々が死んでいます。その原因ははっきりしていません。

経済についても、私たちの共和国では、インフラストラクチャーと農業系統が実際に百パーセント破壊されています。

経済学者によりますと、農業系統の復興だけで三百億アメリカドルかかるといわれております。この一年十か月の戦争の間にロシアは十億ドルを世界から供与されています。それは何千という人々の生命を奪うものでありますし、またロシアの民主主義、デモクラシーを壊すものです。

今度はモラルや心理的な問題に移りましょう。この戦争は平和協定を守るものではありません。何千というチェチェン人、ロシア人の家族たちが、亡くなった者に対して涙を流しています。なんのためにでしょう。ロシア・チェチェンといった古くからの親しい隣人同士がこういうふうに戦ったということは、これから

長い間歴史の大きな障害となつて横たわるでしよう。それに対して政治家や国家関係者はあつちへ向いたり、こつちへ行つたりという方法でごまかしています。一つの国家から一つの国家が独立することに対して、このような恐ろしい行動が行われているのです。

## 国際法を完全に侵したロシア

チエチェンがこのように破壊つくされたのは、ロシアが完全に国際法を無視したからです。国際法で定められているのは次のようなことだと思います。すべての国際的な文書において民族の自治権が認められている。国際文書においてすべての政府の自治が確認されている。これら二つの権利は人間にとって主要な権利であります。みなさんが実際にご覧になつてゐるように現実には矛盾が起つてゐます。少数民族の自治・独立において、完全領土権、領土の保障という権利を主張するということは法的にも定められてゐることです。それを許さないのは国際社会のルールを頭から無視した行為だと思います。

どのような国家が独立する権利をもつていて、どのような国家がもつていないということは、どうやって決められるのでしょうか。異なつた民族がこのような独立国家をつくるにあつて、領土権、領土の保障という権利が国際法で定められているのに実際に行われていないということになれば、民族の自決権をもつた民族というのは紙に書かれただけのものになつてしまひます。そういった権利を持ち得ない、これからも持ち得ないという民族の、グループ、団体というのは一体どういふものなのでしょう。そういった答えをみつめることは誰もできません。

中世のスコットランド地方を舞台にしたイギリスからの独立、という内容の映画が公開されたことがあります。映画の主人公のスコットランド人は、自国の民族の独立のためイギリスに対して戦つて独立を実現しました。でも私たちは二十世紀に生きているわけです。二十世紀に生きている私たちはこのような問題を

武力で解決することはできません。なぜなら二十世紀の戦争というのは大量殺りく兵器による戦いだからです。私たちは、だからこそ素手で立ち上がったのですが、それに対してあらゆる武力が実際に行使されたのです。チェチェンではあらゆる人権が完全に無視されています。中世と同じような悲惨な行為という以上に、中世には考えられなかった残酷な殺りくと破壊が続いたのです。

## ロシアに資金援助しないでほしい

最後に私たちの考えを申し上げます。

まず戦争の原因をなくし、戦争が起きてしまわないように努力するつもりでいます。このような悲惨な戦争が二度と起こらないように、国際機関が警察か消防士のようにチェチェンに駐留するようなこと、を考えなくてはなりません。

これからのようなことが起きても、ロシアがどんな残酷を働いたとしても、戦争行為は避けていかなければなりません。

この地球上においてこういう戦争が二度と起こらないようにあらゆる努力を続けたいと思います。

私たちがもつとも必要としているのは、法的、政治的そして道徳的、モラル的な、大きな援助です。

私はこのスピーチを終えるにあたって国際社会に訴えたいと思います。チェチェン問題に取り組んでいる方々に訴えたいと思います。国際社会が、これは単なるロシア国内の問題ではなく、すべての人類に関係する問題だということをわかっていただきたい。

地図上でもみつけれないほど小さいチェチェンという小さな国の問題ではありませんけれど、ここで完全な人権侵害が行われているのです。これは単なる民族の大量虐殺だけではない。もつとも悲惨なことは、この戦争に資金援助を送っているのが国際社会であるということです。ロシアに資金を送っているありとあら

ゆるる国々の援助、それがそのまま直接戦争に使われているのです。

国際社会のそのような資金援助がなかったら、ロシアは戦争をやめていたでしょう。ロシアの民主主義設立のために使われるはずのお金が、かえって崩壊のために使われているのです。チェチェン民族の撲滅、そしてチェチェンとロシアの高い伝統を破壊するために、湯水のように使われているのです。どのような人間もこのようなことに対して抗議を示さなくてははいけません。この世界に生きている限りそのような抗議を行わないといけないと思います。こういった行為はとても価値の高いものと思います。ありがとうございます。(拍手)

## 素手で「戦争」に立ち向かった女たち

### マリヤ・キリバツソワ

ちょっとごらんください。いま皆さんの目の前に二人の女性が座っています。彼女はチェチェン人、私はロシア人です。現在ロシアとチェチェンの間で戦争が行われているのですが、戦っている二つの民族の女性が見なさんの目の前に座っていることにまず注目してください。男同士は戦いましたが、私たち女同士、母親同士は手を結ぶようになったのです。なぜそういうふしぎなことになったのかをお話したいと思っています。

## チェチェンの女性が息子の生存を知らせてくれた

チェチェンに対する攻撃が始まったとき、チェチェンの人たちは一斉に抗議しましたが、ロシアでも女性には戦争に反対でした。



一九九四年、十二月二十四日、私たちが反戦運動をしている時、チェチェンの女性たちが、ロシア兵の捕虜のリストをもってきました。それはドウダエフ・チェチェン大統領が、もし母親たちが捕虜のことを聞きにくるとしたらこれを渡そうという趣旨のものでした。チェチェンの女性たちは「若い兵士たちが捕虜になっている。そのお母さんたちはさぞ心配しているだろう。息子が生きていることを知らせてあげたい」と、猛空爆のチェチェンからわざわざモスクワまで来たのです。

ロシア軍は小さなチェチェンに攻め入ったいわば敵ですが、チェチェンの人たちは、シエバードを連れた衛兵に見張られて攻め込まれた十八とか十九歳の若い兵士たちを地下壕にかくまって助けたのです。何も知らずに徴兵され、遠いチェチェンまで「生きた兵器」にさせられて来た若者たちが犬死するのを見ていられなかったのです。

私たちは感激してハロシア兵士母親の会Vをつくりました。そして、ロシアの新聞、イズベスチヤ紙にそのリストを載せました。そうしたら、まず四人の母親がやってきました。

こうして一九九四年八月六日、私と四人の母親の代表がチェチェンに向かいました。まずこれはなかなか起こり得ないことだと思えます。兵士の母親が戦場に赴くということは。

私たちはダゲスタンまで汽車で行きました。そのあとハサユルトを経由してバスでグロズノイの市内に着きました。そのあと、グロズノイの広場で夜を過ごしました。

朝になって初めてチェチェンの兵士たちを目にしました。そのなかには老人、おじいさん、おばあさん、年とった方々もいました。驚いたことに、こうした人たちが兵士として働いていました。広場周辺では攻撃が行われていましたので、私たちは深夜になってやっと捕虜が収容されているところになどに着きました。チェチェンの司令部があります大統領官邸のバンカーに着きました。

その時、私たちが話をしている時に突然一人の息子をみつけたのです。母親は連れて帰ろうとしました。翌日地下のほうも探索しましたが十八人以上の人が捕虜としていました。そして彼らの住所と両親の住所

も聞きました。両親とどのような話をしたいかも聞きました。

八月十三日に七人の捕虜を渡してもらって、彼らといっしょにモスクワに向かったのですが、私はグロズヌイに残りました。なぜかというところには大きな問題がありました。十八歳未満の若い兵士たちがそこで働いていました。

ドウタエフの司令部を経て私たちは歩いて行きましたが、道には殺された兵士たちが横たわっていました。その兵士たちはそのまま犬に食われていました。犬に食われている兵士をどのように収容するか、どのように故郷に帰すか、一か月間、手を尽くしました。

母親たちはかなりの数の捕虜を渡すように軍に頼んでみたのですが、なかなかうまくいきませんでした。私たちがグロズヌイを出たのは翌年の一月七日でした。そのときには警護をしてくれる兵士たちはいませんでした。

その後、平和擁護のためにモスクワで国際会議が開かれました。ロシア兵士の母親委員会、仏教団体、イギリスの団体なども援助してくれました。

## 母親たちの大行進

三月八日の国際婦人デーに私たちは再びモスクワを訪れました。

ロシア兵士母親の会Vの事務所に行けば捕虜のリストがある、情報があると聞いて、ロシア全土から母親たちが集まってきました。一九九五年三月八日、凍てついた雪がまだ残るクレムリン脇の「無名戦士の永遠の火」の前で、千人余りの人が手をつないで人間の鎖をつくりました。

捕虜のリストを手にしたロシアの母親たちは、何とかして息子たちを取り戻そうと、命をいづくしむ母たちの会Vをつくり、遠いチェチェンまでデモ行進しながら、出かけようと集まったのです。人間の鎖は、

その行進に参加する母親たちの出発式でした。

戦争は武力では鎮まらない。直接戦地に乗り込んで、非暴力の平和行進でチェチェン人とロシア人の間に  
入って、戦争をやめて！と訴えようとしたのです。私たちは、寺沢上人など宗教者の方々と一緒にモスクワ  
を発ちました。戦火のグロズヌイまで約三千キロ、その間ボルガ沿いの大都市をリレーし、各地で戦争中止  
を訴えながら、チェチェンの国境まで移動、そこでロシア全土から集まった母親たちと合流する予定でした。  
ロシア兵士の母親たちとともに、日本人の林さんを含めてジャーナリストの方々、寺沢上人さんなど宗教  
者の方々もいっしょに出発しました。

サラトフ、アストラハン、ボルゴグラード、ロストフ、エリスタ、その他十二の都市で平和運動を展開し  
ました。道程はかなり険しかったんですけども僧侶の方々が私たちを助けてくださいました。精神的にも  
かなり支持をいただいて、応援していただきました。

これは海外にも報道され、ロシア連合軍の総司令官から、「あなた方の目的とする戦争終結が一日も早く実  
現するよう、我々も努力する。あなた方もロシア軍の要求をチェチェン側がのむよう説得してくれ」という  
手紙が来たほどでしたが、ジャーナリストたちがロシアの戦争犯罪を追求し始めると秘密情報部が動きだし  
たので、平和行進はチェチェンの隣のイングーシ共和国からチェチェンに入るになりました。その途中  
でバスに乗せられてナズランまで護送され、ロシア各地からナズランに集結してナズランから参加しようと  
していたロシア全土からの母親たちは追いつき返されて合流できなくなりました。

## チェチェンの村人も平和行進に合流

しかし、三月二十六日にはイングーシやチェチェンの母親たちが千人も平和行進に加わり、チェチェンの  
国境を越えるとサマシキの村の人も全員加わり、たいへんな行列になりました。そこでかなり大きな集会を

行いまして、そのあとまたサマシキで平和行進の最終地点を迎えたのですが、そこでは九時間拘束されました。戦車によって道を阻まれ、特別警官に周りを囲まれました。私たちはただ膝をついたり、地面に座ったりしてただ九時間、立ち続けました。僧侶の方々が周りで楽器（日蓮宗の太鼓）などを鳴らして応援してくれました。

暗くなつてから兵隊たちは包囲を解いたんですが、僧侶の方々を車に積んで行きました。私たちの後ろではまだ攻撃が続いていました。真つ暗になつてからは夜間の特別の攻撃用の兵隊が周りを包囲していました。私たちは列になつて、包囲しているバスに体当たりをしました。

ここで注意したいことは私たちの行動をたくさん外国人ジャーナリストがみていたということです。ドイツ、アメリカ、スイス、ポーランド、日本のジャーナリストが来ていました。彼らは私たちをヘリコプターや、飛行機などで運んで下さいました。

## 私たちの味方の村人を虐殺したロシア軍

しかしその間に、身の毛もよだつような出来事が起こったのです。ロシア軍はサマシキを包囲し、家々からめばしい物を全部奪い取つて女を犯し、男たちの首や心臓をえぐり取つた後、子ども老人もいる家に火焰放射器で火をつけてすべてを焼き尽くしたのです。私たちをあんなに温かく迎え、村じゅう総出で行進までして下さったサマシキの人々が、口で言えないほど残酷な殺され方をしたのです。

素手で戦争を止めようとしたチェチェンの人々もとうとう武器を持って立ち上がり、ロシア軍はそれに猛空爆を加え、チェチェン戦争は泥沼状態になりました。

それを何とか阻止しようと、今年四月二十一日に私たちは再びグロズヌイに入ったわけです。そこでは平和行進を行いました。この平和行進は約一か月半にわたって行われました。現在のグロズヌイでも数々の反

戦集会が行われています。ほとんど毎週のように広場で集会が行われています。

ここでみなさんにお伝えしたいのは外国人の方々には聞いて驚くかもしれませんが九五年の一月、二月にわたって約二万五千人の母親たちが大統領に自分たちの息子を人殺しのために使わないようにと抗議したことです。もちろんこれは数多くではありませんけれど、母親たちの抗議として自分たちの息子を戦場に行つて取り返そうという動きもみられました。

レベジ氏が平和調印を行えばこのような戦争がなくなるかもしれないというのが希望的観測であります。

もしこのような調印が行われなければ十月に再びこのような平和行進を行おうと思っています。どうもありがとうございます。(拍手)

## 質問

**ロシアはチェチェンをどう報道し、人々はどう考えているか**

A(男) 今日たまたまこの会場に来る途中で地下鉄に乗ったんですけど、その中でロシア人の若い女性二人が乗ってきたものですから、手持ちのチェチェンに関するファイル、写真なんかをみせながら、チェチェン紛争をどう思うか、ということを描いてロシア語で聞いてみたのですが、「それは知っているけど私たちには関係ない」と顔をそむけてしまつて……。一般のロシア人の意識はどういうものか、この二人の態度だけで判断するのはどうかと思いますけれど。

マリヤ もちろんロシア民族はチェチェン戦争を支持していません。世論調査によりますと七〇パーセントの人びとが反対しています。

A ラジオで夜九時から日本向けのモスクワの放送があり、毎晩聞いているんですけど、必ず冒頭にチェチェンの問題を取り上げています。けれども、内容はかつての日本の大本営の発表みたいにチェチェンの軍事勢力が一方的に和平合意を破って戦闘を仕掛ける、と毎日そういう内容なんですね。やっぱりロシア国内でもそういう報道が主流を占めているのでしょうか。

マリヤ あなたが言っていることは正しいです。マスコミが必ずしも正当な報道をしているとは思いません。特に大統領選挙前にはかなりチェチェンに対しての報道が規制されていたように思います。

B(男) まずマリヤさんにお聞きします。最近出たある雑誌のルポルタージュに、ロシアとしてはチェチェンは国境閉鎖して切り離してしまえばいいじゃないかという発言をしている例が載っていました。それが一般的な感情だと思いたくないのですが、チェチェンの人たちに対してロシアの人たちが本当にそのような感情を持っているのでしょうか。それはごく一部のことでないでしょうか。

マリヤ ロシア人がチェチェンに対してどのように思っているかという質問ですが、これはとても難しい問題です。チェチェンを独立させるかさせないかということは相当難しい問題だと思います。ある人は平和的に独立すればいいと言いますが、ある人は無理だと言います。

B マディナさん、国際機関が警官か消防士のように駐留することも考えられるとおっしゃいましたね。いま現在OSCDが監視団を送っているはずなんですけれども、OSCDの活動は実際のところどれくらいい成果を上げているのか、あるいはないのかを。

マディナ 第二のチェチェンが起こらないための消防士を置くと言いましたが、それはこれからどのように民族が独立するかということよりも、まずどのように戦争をやめるかということにかなりの重点を置きたいと思っています。国際機関の成果ということに関してははっきりしたことはいえませんが、国際法で

はつきりと決定がなされてこそ成果があがるものと私は思っています。

寺沢 四年ほどロシアに生活していますが、チェチェンの戦争が始まってからロシア国内の社会感情が大きく変化しています。原因はロシア政府の発表が大きな影響を与えているのです。チェチェン人はならず者犯罪者集団であるというプロバガンダは戦争が始まる前から続いておりました。今はテロリストというイメージでどんどんプロバガンダをやっております、世界全体の中にコーカサス出身者に対する差別感情といえますか、民族的な憎悪・蔑視という感情がはびこり始めつつあるというのが実態に近いかと思います。

モスクワとかベテルスブルクなどの大都市になりますと、あからさまにコーカサス出身者、髪が黒くて、肌が少し黒い、人種的に明らかにコーカサス出身者とわかるそういう人たちに対して警察は検問をして必ず証明書を提示させて、住民登録をしていないという理由で拘束をしております。

チェチェン人に対しては、警察がポケットの中に鉄砲玉や麻薬を本人が知らないうちに入れて、それを現物証拠として逮捕するといったことをしています。私の友人も、十年以上の刑に処し、いま裁判闘争をしています。そういうケースをいくつも知っています。そういうたかたちでロシア社会の中でコーカサス人蔑視感情をどんどん広めて、一方でロシアの民族主義が大きくなっていく、そういうことがいえるんじゃないかと思います。

## ドウダエフさんの死は影響を与えたか

C(女) 私は民族の言語に非常に興味をもっている主婦ですけれど、マディナさんに伺います。いまロシア語で話していらつしやいましたけれど、昔からチェチェン人はロシア語で話していたんですか。

マディナ もちろんチェチェン人はチェチェン共和国の中では母国語チェチェン語で話しています。けれど

も小学校に入ってから義務教育として必須科目としてロシア語を外国語のように勉強しています。私たちは本国ではロシア語よりもチェチェン語で話します。チェチェン語というのはチェチェンの民族を表す重要なものであります。ドウダエフをはじめいろんな指導者が提唱していたことですが、東欧諸国の独立と共に自国の言語を自由に学べるという権利も主張されています。よい質問をありがとうございました。

D(男) 湾岸戦争に反対して、いま日本政府を相手に裁判をしている者です。お二人に質問したいんですが、ドウダエフ大統領が亡くなったことに対してチェチェンのほうとロシアのほうとお二人のみたところでどのような影響がありましたか。

マディナ ドウダエフは国民的な英雄でありました。三百年の歴史のなかで彼のような偉大な英雄はたくさんいました。三百年前 私たちの民族は四百万人おり、私たちの民族の独立のために戦った人もいました。三百年の間に六回の戦争がありました。政治家の交替が行われる度にこのような民族の独立の問題が取り扱われました。ドウダエフは民族自立のために戦った。もしできることなら戻ってきて戦ってほしいと思います。

マリヤ ロシアの一般の人びとは、チェチェンの人びとがドウダエフ大統領に抱いている深い尊敬の念を理解していないと思います。

E(女) ドウダエフ死後もドウダエフさんに対する気運は変わらないと思いますか。

マディナ はい、変わっていません。

## 世界の石油戦略とチェチェン



F(男) 私、大学と商売で五年くらいモスクワにいたんですが、マディナさんに質問があります。質問に入る前に三つの地図をみなさんにみていただきたいと思っています。

これは日本石油公団からもらった地図です、この地図はアメリカのコンサルティング会社、ア・プライス・オブ・ハウスからもらったものです。さきほど先生も言われましたがこの戦争の核心は石油パイプラインだと思っています。ここにテングスというところがあります。テングス油田、これはアメリカのシェブロンという会社が主に開発しています。次はバクー、アゼルバイジャン、ここは十二の会社が共同開発していますが、トップはペキシペトロイネ、すべてメジャーです。この背景には中東の石油バランスが二〇一〇年くらいに崩れるということがすでにわかっています、中東の石油の次はロシアということも、世界を支配している方々はすべてわかっています。テングスの油田、バクーの油田、両方ともグロズヌイを通らないと外には出ていけません。

マディナさんがこの戦争に資金援助しているのは国際社会だと言いましたけれど、私も全く同感です。世界のエネルギーを牛耳っている支配層と世界のマスメディアを牛耳っている支配層は同一じゃないでしょうか。ですからチェチェンの真相はいつまでたっても伝わりません。とても難しい問題なんですがチェチェンを通っている石油パイプを迂回することはできませんので、チェチェンを北と南に分割するというアイデアがチェチェンの分割案ですね、それに対してチェチェンの人は賛成することはできませんでしょうか。

マディナ エリツィン大統領が選ばれ、議会のメンバーも新しく選ばれました。戦争開始までロシアは公式にはチェチェン共和国を認めていませんでした。

私たちはロシアからの交戦状を受け取っていませんでした。ご質問のように、この戦争の原因は経済的な問題、石油にあります。七四年から始まる十五年間の問題です。石油を得るためには必ずチェチェンを通らなくてはなりません。アゼルバイジャンのバクーの未曾有の油田に到達するためには、チェチェンが石油輸出入の重要なポイントになるわけです。国際法に基づいてドウダエフ大統領はチェチェン共和国の搾取の代

償としてそれなりの支払いを要求いたしました。ロシア側ではチェチェンはロシアの一部であるからそういった支払いには応じられないということでした。

F つまり分割案には応じることはできないということですか。

マディナ そうです。分割は作爲的なもののなのです。チェチェンは車で三時間で一周できるくらいの小さな国です。それを北と南に分けるという案が出ているそうですけれども、それは石油パイプを通すための人為的なことですので、あり得ないことです。石油ラインがこのように通っているのです、チェチェンの国を南北にまっ二つに分けることは無理だと思います。こういったアイデアが出てくるということはマスコミに躍らされた人たちがそんなことを考えていることだと思います。

寺沢 今の質問に加えて説明します。チェチェン戦争の動きは石油パイプと石油資源の両方を並べながらみないと動きの根にあるものがみえてこないというのが実態だと思うのです。実はバクーの石油精製のプロジェクトですけど、すでに昨年完成してパイプを使って黒海から輸送できるだけのものができているわけですよ。おっしゃるように大半の資本はブリティッシュ・ペトロリアムから出ております。私と一緒に活動しているクリス・ハンターという平和主義者のNGOの方がいまして、平和運動や救援活動をしているんですが、そのクリス・ハンターさんが英国の外務省の人に直接談判したことがある。そのときにチェチェン戦争の問題について英国は触れることはできないんだと、「マル秘」だけれど、どんな情報をもつてきても我々は反応することはできないと、ハンターさんにはつきり答えたそうです。

実際に去年中にチェチェン戦争を武力的に解決して、コーカサスの安定を築くということは西側からエリツインに向けられた至上命題だったんです。それができていないということです。

それからドウダエフ大統領の殺害の日にちでございますが、モスクワで核安全サミットが開かれた後で、

西側のリーダーが全部モスクワを発った翌日にドウダエフ大統領が衛星電話で話しているその電波をウォッチングしたミサイルが宇宙から誘導されてピンポイントで命中したというんです。その数日後にエリツインは北京での中国首脳との会談のあと上海に行きまして旧ソ連の中央アジアのリーダーとサミットをもちましてそのあとカザフスタンのアルマアタに行きます。そこでいまおっしゃったカスピ海にある膨大な油田の石油のパイプラインをロシアを通して黒海に送り、西側に販売するというパイプライン設置の協定を結んでいます。西側もロシアも、それ以前にドウダエフ大統領は殺されねばならなかったのです。そういう背景が見えてくるわけです。

## なぜロシアで反戦運動が可能だったのか

G(男) 新聞記者です。マリアさんとマディナさんに伺いたいんですが、お二人がなさっているような反戦運動・平和運動というのはソ連時代にはまず当局に許されない、考えられなかった運動だったと思うんですが、現時点でお二人がそういう運動をするのに対して国家からのなんらかの圧力、例えば身の危険を感じられたことがあるとか、妨害を受けたことがあるとか、あるいは国家だけじゃなくて脅迫状とか運動に対する圧力、具体的に何かそういうことがあれば教えていただきたいと思います。

マリア あなたのおっしゃることは正しいと思います。ソ連時代には我々の運動は、活動することはもちろん、存在することも不可能でした。アフガニスタンの戦争をみればわかりますように、当時は、母親たちは、帰ってきた息子を公に葬るのではなくひそかに葬って動いていたという状態でした。このような状態に変化が起こったのはゴルバチョフのペレストロイカ以降です。もちろん政府は私たちにに対して支持はしていません。政府にとってこんなにも害がある団体はありませんから。小さい団体にももちろん政府は援助をしません。私たちの援助をしているのは国際人権擁護団体だけです。もちろんちょっとしたいやがらせはあり

ですが、脅迫状とか脅迫行為というようなものではありません。圧力は感じますけれど、大きなもの、公のものはありません。

H(男) 今日「世界報道写真展」を見に行きました。世界報道写真展というのはオランダにある報道写真の財団が主催している、世界の通信社から配信されている報道写真の受賞作の展覧会です。日本で毎年公開されているのですが、去年私が行ったときはボスニア・ヘルツェゴビナの写真が受賞した写真を占めていました。今日行ったところ、入り口付近の写真一帯はチェチェンの写真で埋め尽くされていました。

マディナさんは、ドウダエフ將軍にまた戻って来てほしいというお話だったんですが、サラエボにあるオリンピック会場が墓で埋めつくされたようなことをまたチェチェンで血を流して戦うという覚悟があつてのことかどうか、ということをお聞きしたいのですが。

マディナ こういった意見があります。ドウダエフは死んでいなくてケガをしていて外国で治療をしていると、中央テレビで言っていました。私は平和的方法で戦って平和を得るということが最も大事だと思います。

## ドウダエフ殺害の真実

J(女) ドウダエフさんは、電話をかけているところを逆探知されてミサイルを打ち込まれた、と日本の新聞には出ていましたが、寺沢上人は真実をご存じでしょうか。

寺沢 当時ロシアの大統領選挙戦で「チェチェンの戦争は終わったのだ」というポーズを示さなくてはならないので、ロシア側はドウダエフ大統領と交渉に入るといって態度を示しました。ドウダエフさんは毎晩衛星電話でアメリカの大統領やモスクワの国会議員と連絡をとり、和平交渉について話し合っていました。そ

の時期になってからチェチェンの周りの全部の電気を消したり、テレビの放映を止めるなど、不思議な状況になりました。電気も電波も止めて、ドウダエフさんの衛星電話の発信場所がはっきりわかるようにしたのです。自分がキャッチされているということがわかって、ドウダエフさんも頻繁に移動したり電話を切ったりしていたのですが、ついに逆探知されてピンポイント爆撃でやられたようです。この探知技術やピンポイントミサイル爆撃技術がロシアにあったか、大いに疑問です。現地のロシア軍は、それを否定しています。自分たちはやっていない、と。

その後二、三日、生きている、死んだ、とさまざまな発表があり、非常にギャップがある。実にちぐはぐなのです。本当に限られた秘密作戦であったことは明らかなのですが、アメリカの技術的な支援があったのかないのか、そのへんに疑惑が持たれています。

K(女) マディナさんは、ドウダエフさんはまだ生きていると信じていらっしやるようですが。

寺沢 謎が深く、真実がわからないのです。あの直後にドウダエフ夫人が行方不明になったのです。そしてパツとモスクワに現れて記者会見した時は「私はエリツイン大統領を支持します」と言ったのです。それは大きく報道されました。ドウダエフ夫人は国境を越えて逃げようとしていたのですが、その時護衛をしていたチェチェンの男性が人質になった。喪中の夫人は喪服のままモスクワに連れて来られて記者会見をし、それは大統領選に大きく影響したと思いますよ。

K 夫人はその後どこに……。

寺沢 いまウクライナにいます。居場所は誰もわかりません。

## 停戦は本当に成立するのか

―(男) 停戦合意が今回されましたけど、またこれがどんでん返しになることがあるんでしょうか。  
林 (チエチエンを取材している日本人ジャーナリスト) わかりません。どんでん返しというのはどの程度のことをいうのですか。

― いわゆる停戦合意を打ち破って攻撃を仕掛けるという……。

林 可能性は高いと思います。どこまで大規模になるかということとは政治の流れとか、国際環境とかそういうのをみていかなければいけません、これでピタッと止まって平和……は、ちよつと考えにくいな、と。

― だんだん終東気味になっていくという傾向なのか、また大攻勢があるのか……。

林 今回の停戦合意をみれば多少よくなっていると僕は期待したいけど、できないというかんじです。

― 中央司令官と現場の意見の仲たがいというようなものはないんでしょうか。

林 それはあるんじゃないでしょうか。いくら現場でやつても中央と現場とか、軍の内部もそうだし政治家・政府首脳の間で、今回の停戦合意をすごく批判して……。チエチエンの武装勢力はとんでもないから話す必要もないと、副議長が言っているくらいですから。そっちのロシア自身がこの問題をどうしようとして、いつごろまでに第一のステップでこういうことをして、第二のステップでこういうことをしてとか、意志統一がはかれないければ平和なんて訪れなくて、いつどうロシアの内部で変わるかわからない、そこが一番大きいと思います。それにやはり軍事組織が現場にいれば、何かあったらどうしても行ってしまう……そう

いうことだろうと思います。

マディナ 和平交渉は九五年の夏から始まっています。

Ｌ(女) レベジさんはいまたいへん人気があるようですが。

寺沢 人気がありますが、モルドヴァ——ウクライナのおアッサとルーマニアの国境にある独自の民族——が分離独立しようとした時、レベジさんは、モルドヴァの民族兵をある谷に追いやって、総攻撃で全滅させ、分離独立の動きを未然に防いだと、私はある筋から聞いています。一年前、彼が大統領候補になる前の話です。そういう意味で、彼が本当に少数民族の友なのかどうか疑う人もいますが、いま彼が和平交渉を推進しているという意味で、私は彼を支持しています。何としても和平が実現することを願っていますので。

Ｍ(女) 寺沢さんは日本の新聞に真実を伝えようとなさったそうですが。

寺沢 サマシキの虐殺の時、私はただ一人現地にいた外国人でしたので、これをぜひ世界のメディアに知らせなくては、と思い、高い衛星電話料を払って朝日新聞に電話したのですが、一行も載らなかった。残念でした。虐殺の後、一帯にもものすごい、じゅうたん爆撃が続きましたが、私は現地にとどまって、祈りながら真実を見極めたいと思って残っていたのです。山全体が揺れるほどの爆撃音でしたが、これは、武器消耗戦が目的だからでもあるのです。成果があってもなくても大量に爆弾を使い、消費した爆弾を水増しして報告する。浮いた武器は世界の武器マーケットに流れ、現地の指揮官のポケット・マネーになる。一方、武器を消費すれば、ロシア経済崩壊の中で壊滅寸前の軍需産業に発注が来る。そういう構図がこの戦争の本質にあるのです。それを見極め、報告したいと。センマイや野性のニンニクを食べ、湧き水を飲んで山中を放浪しましたが、マスコミはチェチェンの報告をしませんね。『あそこ』のようところがいつも私の報告をのせて

下さることに感謝しています。

N(女) 寺沢さんがロシア兵につかまって行方不明、と、去年日本の新聞に記事が出て、みんなで大変心配しましたが――。

寺沢 私がアモの先導をしたので狙いをつけられたのでしょうか。去年の七月、グロズヌイから弟子七人と山岳地帯を移動中、七人の弟子と共にバスから引きずり降ろされ、頭から袋をかぶせられて、腹を蹴り上げられ、目隠しされたまま穴蔵に入れられました。一時間後、強制収容所へ。ここでも目隠しのまま廊下を何度も走らされて、冷たいコンクリートの床に大の字に寝かされ、身動きすると腹を蹴られました。みんなでお経を念じていました。食事はバケツの「回し食べ」です。スूपのようなものが入っているのですが、お皿もスプーンもなく、バケツから直接のどに流し込む。そんな生活が続きましたが、五日後、釈放されました。一時は死を覚悟しましたが、チェチェンの人たちが受けたすさまじい拷問に比べれば、とるに足りないことだった、と思っています。

## チェチェンに何をすればいいでしょう

O(女) お二人の勇気と愛に感動しました。チェチェンを支えたいと思いますが、いま何をすればいいでしょう。

マディナ 一番ありがたいのは、真実を報道し、国際世論を巻き起こして下さることです。各国、とくに大國の政府は、利権で結びついていきますから、情報封鎖・情報操作はしても、真実は伝えません。NGOからNGOに伝えて世界中に真実を広めて欲しい。マスメディアは、政府同様、情報操作のネットワークで結ばれているので、報道は難しいと思いますが、メディアに関わる方はぜひ手伝ってください。見舞品（とくに



医療品、生活必需品」を頂くのもありがたいのですが、いま一番心配なのは、たくさんの戦争孤児が生まれたことです。何か力に——精神的な力になって頂けますか。

P(女) レイプがひどかったというお話ですが、戦争となれば、チェチェンの男もロシアの女を犯したのでは？

マディナ (キツと顔色を変えて) チェチェンの男たちは、一人の女も犯していません。チェチェンはモスリム(イスラム教徒)の国。厳しい戒律の中で生きています。犯されることはあっても、絶対に犯しません。寺沢 それは私も保証します。いま世界中で一番仏に近い人、神に近い人がチェチェンの人たちです。

Q(女) 捕虜になったロシア兵で、そのままチェチェンに残っている人もいる、と聞きました。

マディナ 少数ですがいます。チェチェンの人情に感動してそのままここにいたいと……。ロシアもいま大変な生活難だし、徴兵された兵士は、貧しい階級の人が多いのです。

R(女) なぜ貧しい人が多いのですか。徴兵は全国一律ではないのですか。

マリア (マディナと顔を見合わせて) 全国一律のはずですが、お金を包めば免除されます。結局、お金のない人が兵隊にとられるのです。

\* \*  
\*

いつもながら寺沢上人の捨て身の行脚には感動するが、それにしても、ロシアとチェチェン、二人の女性(そしてそれに続く無数の女たち)の勇氣と知恵は、なんと素晴らしいことだろう。

ちよつと見ると、チェチェン人のマディナさんがロシア人、ロシア人のマリアさんがチェチェン人(とい

うよりも日本人)のように見える。ロシアと言っても広大。マリアさんはウクライナの人、ということだった。原産をチェルノブイリに設置したように、ロシア軍も辺境の人たちを多く徴兵しているようだった。共に抑圧された者同士として、母親たちはすぐに共感できたのだろう。

私たちは去年五月、寺沢上人のお話を聞いて、チェチェンのことを案じ続けた。が、樂觀的すぎたように思う。去年のお話(208号に掲載)よりもさらに激しい攻撃がチェチェンに加えられ、一年で七万以上もの人が殺されたのだ。その殺され方はベトナム戦争のソンミの虐殺と全く同じ。旧日本軍も中国はじめアジア各地で同じようなことをしたのだろうと、鳥肌立つ思いで話を聞いた。

戦後五十一年、日本はアジアの深い恨みの中にあるが、目の前で肉親や隣人を殺された人の恨みが消えるはずがない。チェチェンの話で唯一の救いは、チェチェンの人たちが、まるで神や仏のように、ロシアの兵士までも許していることだった。「これこそ本当の宗教者」と、この五年、寺沢上人がチェチェンに打ち込んでいる気持ちも、はじめてよく理解できた。

それにしても、「日支事変」と呼ばれていた戦争で、日本の母たちは息子を取り戻しに大陸に渡れなかったのだろうか。中国人も日本人も、犬に食われ、ウジに姿を消した死体も多かったと、五十年たつて私たちは初めて真実を知ったのだが、もしも十五年戦争の初めから真実が公開されていたら、当然国内には反戦の声があがり、アジア太平洋戦争には走らなかつただろう。おそまきながら私たちは真実を知った。戦争を地球からなくすには、何よりも情報公開、そして女たちの一念発起の行動以外ないと、しみじみ思った。

世界各地に救援を待つ子どもたちは多い。△あ△ら△は、ベトナム、ケニア、イラクの子どもたちの救援にかかわっているが、チェチェンの孤児たちと養子縁組できないだろうか。

それを申し出たとき、マディナさんは顔じゅうに笑みをたたえたが、アドレスを聞くと、「私たちにはもう家がありません。ですからアドレスもありません。マリアさんに連絡してください」と静かに答えた。

二人の母を招いた「市民平和基金」は、引き続き「チェチェン難民援護基金」を募集しています。左記へどしどし、どうぞ。

銀行振込 住友銀行飯田橋支店（普通） 579420 「チェチェン救援金」

郵便振替 00100041722213 「市民平和基金」

※通信欄に「チェチェン」と記入して下さい。

チェチェンの孤児の養母になりませんか？

日本の千円は、現地では十万円以上の値打ちがあります。お金にもまして、「遠い日本で、自分のことを祈っている人がいる」ということは、子どもたちの心の灯になるかもしれません。

「あこら」では「チェチェンの母の会」をつくることにしました。ご賛同の方、行動しましょう。  
「チェチェンの母の会」

毎月一度でもチェチェンの子どもたちを思い出してください。そして、短い手紙を書いて下さい。手紙はロシア語に訳して送ります。できればお金も添えてください。マリアさんを連絡先に、支援を続けたいと思います。

〒160 東京都新宿区新宿一―九―四「BOCあこら編集部」

振替 001000015264 ※「チェチェン母の会」と明記して下さい。

# 私がカメラで伝えたいもの

こなが や やすの  
小長谷 康乃

(東京メトロポリタンテレビジョン記者)

沖縄米軍基地反対集会や、路上生活者のデモなどに出没する不思議なデジタルカメラ。そうです、それはMXテレビ、東京メトロポリタンテレビジョンです。あと一か月余りで開局一年を迎えますが、残念ながらまだ知らないという人も多いのでは……。MXテレビは二十四時間放送の東京初のUHF局で、そのうち半分の十二時間は「東京ニュース」を放送しています。他ではなかなか見られないニュースを！と、三十人の映像記者（カメラと記者、そして編集もする）が、日夜東京を走り回っています。私もその映像記者の一人ですが、なんと映像記者の三分の二を、二十代後半から三十代初めの「女性」が占めるという、なかなか珍しい局なのです。地域の祭りから区議会まで取材しますが、なぜか私が「惹かれる」というか「共感」を持つのは、世間から置き去りにされてきたもの。路上生活者、新宿中央公園の捨てネコ、そして日本の戦争責任。

去年は、クリスマスイブも大晦日も新宿駅の地下通路で迎えた。いつも目に入る景色は、足早に通り過ぎる人の波、そして、眠ることもできないくらい冬の寒さ。父親くらいの年の「おじさん」は笑っているのに、私はたった一日で熱を出してしまった。

一年と少しの取材の中で感じたことは、路上生活者と世間の間の壁の高さだった。確かに長引く不況の中、路上生活者は増え続けているが、不況だけではなく社会構造の変化そのものが、路上生活者を生み出し、状態を長引かせていることも要因だということを、世間は気付いていない。それ故に、路上生活者を同じ人間と見えないような世間の対応には常に失望させられた。

酒の酔いにまかせて、路上生活者に罵声を吐くバーバリーのコートを着た中間管理職。「俺たちは働いているんだ！」と殴りかかる若いサラリーマン。どこにそんな権利があるんだろう。自分が失業することなど考えもしない。しかし、国内から海外へと生産部門を中心に産業の空洞化が進み、大企業と言えどもリストラが進む中、いつまで安泰でいられるかは疑わしい。

行政も「都市における社会問題」と路上生活者をとらえているというが、社会問題というよりは、なまけものや落ちこぼれた存在価値のない人たちという見方が強い。そうでなければ、ねずみよけじやあるまいし、あんなでこぼこの「オブジェ」を取りつけないだろう。そんな人たちの状況は、確実に子どもたちに影響している。都内でも今年に入ってから、少年たちによる路上生活者への襲撃があとを絶たない。「死ぬとは思わなかった」「汚いから俺たちの公園から追い出したかった」など……。

五月ころから夏にかけて、少年たちが隅田川沿いの路上生活者に花火や、三―四キロぐらいの石をビニールのテントに投げ込んだ事件。区教育委員会でも警察でも、少年たちが襲った証拠はないと事件を否定している。一方、襲われた路上生活者の一人は、「(襲った子どもを)警察に突き出したりはしたくない。俺たちと違って将来があるから」。――言葉がなかった。

話は変わるが、九月に新宿で開かれた「毒ガス展」にむけて、この夏、毒ガス製造工場のあった大久野島で開かれたシンポジウムに参加した。十年以内に地球上からの化学兵器全廃をめざす「化学兵器禁止条約」が近く発効となる予定で、日本もこれに批准しているが、自らの毒ガス戦についてはやり過ぎそうとしてきた。旧日本軍が中国大陸に放置した毒ガス弾は、中国側の発表で二百万発にも及ぶと言われ、今なお、遺棄された砲弾から毒液が漏れだし、多くの住民が被害にあっている。しかし政府は、毒ガス弾の処理は条約上行なうが、被害者の補償については今のところ何も考えていないのが現状だ。条約によれば十年後には「化学兵器が地球上からなくなる」ことになっている。今から十年間、私も「日本の毒ガス処理とその責任」に注目していきたい。

そろそろ秋の気配を感じる今日このごろ。路上にとっては厳しい冬を迎える。今年も東京の、新宿の二度目の冬を、デジタルカメラで伝えていきたい。



もし人がポリティカリー・コレクト(省略形PC)なら、他人特に性別や人種に関し人々を不快にさせるような言語や行動は避けるべきだと思うに違いない。ポリティカリー・コレクトな言語や表現が、不快感を避けるために別の表現に代わって使われる。ファイヤーマンを性差別的な言葉だと思う人がいるのだからポリティカリー・コレクトな言葉であるファイヤーファイターがより好まれる。日本ではここ数年、アメリカでも10年足らずかな、とシックラー先生(カリフォルニア出身、我校の英会話教師)は言う。フェミニズムと直接は関係ない所で使われ始めたというのがわたしの聞いた範囲の友人の意見。だが、その背景にフェミニズムが無関係であるはずはないとわたしは踏んでいる。

村上春樹の最新エッセイ『うずまき猫のみつけかた』のなかでは、至って当たり前、自然に使われている。小説を書くたびに居を変え、日本以外の場所の空気を嗅ぎながらの国際人ならではのと思わせる。『ねじまき鳥クロニクル』を背いている時のボストン近郊の生活がこのエッセイの舞台。ボストン・マラソンを3回も完走。とぼけたしゃべり方をしながら、なかなか意志の強い人だと、これも舌をまかすにはいられない。

モンゴルのある村で羊を一匹丸ごと目の前で殺され捌(さば)かれて、さっとお湯を通しただけで山盛り骨付きで出された。なにしろ、氏はあっさり食を好む菜食魚食主義者。普段肉などほとんど口にしない、「すき焼きだって野菜とシラタキばかり食べているくらい」な人。「『申しわけありませんが、肉を食べるのはポリティカリー・コレクトではありませんから』なんて言って通じる世界ではない。ここはマサチューセッツ州ケンブリッジではないのだ。ほとんど呑み込むようにしてなんとかちよとずつ食べた」と。

ちなみに8月2・3・4日、嵐山の女性フォーラム(<あごら>も“ジェンダーといじめ”というワークショップをもった)の後に行われた国際シンポジウム「女性と人権」のパネラーの1人がスピーチの中で politically correctness を使われ、質問してこの言葉の流通経路や、流通度、語感などを確かめたかったのだが、自分で納得のいく情報・知識を手に入れるには、何とまわりくどい手順の要ることか。



トイレで写真を撮られた!!

## 「サティ北浦和店セクハラ事件」に抗議

七月十日、へあころ新宿事務所に「友人がトイレで写真を撮られ、ショックを受けている」との電話が入りました。事件の現場が埼玉の「サティ北浦和店」ということで、へあころ埼玉と「埼玉世界みらい会議」で知り合った「市民じゃーなる」編集部に連絡しました。その後被害者Aさんに「へあころ埼玉」と「市民じゃーなる」編集部のメンバーがつきそってサティを訪ね、話し合いを重ねてきました。Aさんご自身が「へあころ」に寄せられた証言を掲載します。

\*

私は七月九日火曜日、夜八時三十五分ごろ駅から歩いて五分ほどの距離にある「サティ北浦和店」に買物をするため行きました。

一階で食料品を買った後、三階に雑誌を見るためエレベーターで上がりました。少し本を見た後、トイレに行きたくな

ったので本屋の前のトイレに行くことにしました。荷物があつたので買い物籠ごとトイレに持って入り、ペビーベッドの上に荷物を置きました。

一番手前の個室に入り、用を足していると、突然カツカツと誰かが入ってくる足音がしました。足音が止まったと思ったら頭上からフラッシュのような光を浴びせられました。ハツと上を見るとカメラがレンズを私の方に向けてあるのが見えました。非常に驚きましたが、このままにはしておけないと思い、急いで身仕度を整えてトイレの外に出ました。

私は従業員も犯人をつかまえるのに協力してくれるだろうと思ったので、勇気をふりしぼって「痴漢だー痴漢だー」と何回も大声で叫びました。ところが、従業員は口をポカンと開けて突っ立っているだけなのです。トイレのすぐ横が階段になっており、下を急いで見ると逃げていく男の頭が見えました。従業員が動いてくれないので、私は自分一人で追い掛けました。しかし、逃げられてしまいました。

がっかりして店内に戻ると、一階カバン売場の店員が守衛



を呼んでくるといいました。

一度三階に戻って荷物を持って再び一階に降りると、エレベーターの前に守衛が来ていました。そして私が被害にあったことをその場で話すと「またかーまた痴漢だってよ」と知り合いらしい男と笑いながら話しているのです。私は非常に驚き「そんなに多いんですか」と聞きました。答えは「とても多く、捕まえたこともある」ということでした。その後、守衛は胸ポケットからボールペンを出しながら「じゃあ名前でも聞いておこっか」と言いました。私はとても恐ろしくて名乗ることはできませんでした。その日はショックを受けて、とりあえず家に帰りました。

翌日、友人夫妻が私の話を聞いて怒り、サティ北浦和店に抗議の電話をしてくれました。ところが店は前の日に事件が起ったことも把握していない始末。加えて守衛は自分の保身のためか「自分も犯人を追ひ掛けた」と嘘の証言をしていることもわかりました。店側は店に責任はないと言って、あやまるどころか逆にこちらをどなりつけたのです。私は今までもこのような犯罪が多数起こっているにもかかわらず、ほとんど何の防犯対策も取っていないということは、黙認しているのと同じ、共犯だと思えます。

また、地域住民として不安でたまりません。これからも必ずこのような犯罪はサティで起こるに違いないからです。そして被害者として精神的なショックを受け続けています。フラッシュをあげせられた時のことが、頭から離れず気がおかしくなりそうです。また、外出するのも恐ろしく思うようになりました。

私は犯人を憎むと同時にサティ北浦和店の客の人権をふみにじるひどい対応に強い怒りを感じています。今後絶対にあのようなことを起こしてはならないと思います。これは女性に対する性的暴力です。

私が店側に要求することは、事件が起きた女子トイレの中に防犯ベルを設置すること、出入口に防犯カメラを取り付けることです。また、私に対して文書での正式な謝罪を求めます。私は泣き寝入りだけはすまいと決心しています。これから時間はかかるかもしれませんが、一つ一つ勉強しながら行動を起こしていかなければと思っています。

しかし、私一人では力不足なのです。どうか女性への暴力差別問題に怒りを感じる方々はご協力くださるようお願いいたします。

\*

九月二十六日(木)、へあごら埼玉の例会にAさんをお招きし、その後の経過と現在の状況をうかがい、今後の対策を話し合いました。Aさんは提訴も考えて女性弁護士に相談したところ「法的には店に責任はある。もっと問題を大きくして世論を盛り上げてから、提訴を最終的手段としたほうがいい」とアドバイスを受けました。店側はトイレのドアの上に目隠しをつける(ただし、隣の個室との間だけで、通路側は開いたまま)、注意表示のサイズ変更(B5からA3に。しかし、なぜか男子トイレ側に貼ってある)など、一応の改善は見せているものの、根本的な解決にはなっていません。

九月になって店側は「もうこの問題からは手を引く」と言い出しましたが、九月二十四日に店長と警備担当がAさん宅を訪問し「防犯ベルと防犯カメラを十月二日までに設置する」と約束。ただし、文書での謝罪については「行わない」ということでした。

Aさんは「これは私一人の問題ではなく、今後の被害をくいとめるために必要な行動です」と発言。場当たりの対応ではなく、社員教育や巡回パトロールの徹底、また八時以降はフロアに正社員がおらず、アルバイトばかりになってしまうという勤務体制についても根本的改善を要求する、もちろん

正式な謝罪文書を要求していくことを、例会の中で確認しました。また、盗み撮り写真の投稿雑誌があることも問題であり、そういう女性の人権を踏みにじる雑誌をなくしていく活動も必要です。

この問題は一応の前進はありましたが、解決にはまだまだ時間がかかります。へあごら埼玉としてもこの問題に継続的に関わっていきますので、埼玉方面の会員の方は、どうぞご参加を。

〔次回例会予定〕十月二十九日(火) 七時

場所はへあごら埼玉 遠藤むら子さんのお店「天てん」を予定しています。大宮駅から十五分。

TEL 〇四八―六四四―八八四〇

## 新しい研究の輪を

### ―三重大学地域共同研究センター―

「三重大学共同研究へのご案内」―このような知らせを受け取った。参加者がつくりあげていく研究とはどのようなものだろうか。

手さぐりの中で、このフォーラム・ディスカッションも五回目を迎えようとしている。毎月一回、会場は三重大学研修

室。へあごら」会員、高橋ますみさんが「三重大学地域共同研究センター客員教授」に就任したことを機に始められた。「この地に新しい研究の輪を創りたい」——ますみさんの熱意にこたえ、参加者は地元・三重県から、愛知県、岐阜県、大阪府、兵庫県……へとネットワークは拡大している。参加者は、女性問題をキーワードに、同じテーブルにつき、本音で語り合う——このことが唯一の約束ごと。家事専業の人、自治体の女性政策の担当者たち、活動主婦。さまざまな理由で分断されがちな女性たちが、ここに集うことでおたがいに立場をわかりあう。そして、誤解していたことに気づく。このような研究形態の輪が全国に広がり、民間の草の根活動家と行政で働く女性たちが対等にネットワークを組めたら、女性のあらゆる分野への参画は、さわやかに広がるに違いない。

来年一月に行なわれる、このフォーラム・ディスカッションのまとめ——「男女参画シンポジウム」では、時代をリードする提言がなされる、そう期待している。（渋谷典子）

\*

◆三重大学「男女参画シンポジウム——行政と女性・グループとのパートナーシップを考える」開催のお知らせ

●研究報告／高橋ますみ

●パネル・ディスカッション／女性行政担当者・草の根グループの女性たち（ネットワーク・タイムもあります）

●日時 一九九七年一月二十七日（月）午後一時半～四時

●場所 三重大学地域共同研究センター

JR／近鉄「津」駅バス乗場④ 三重大学病院前下車

TEL 〇五九二一三二一九〇七八

※参加費は無料。往復はがきに住所・氏名・年齢・「三重大学男女参画シンポジウム希望」と明記して送りください。ご意見・メッセージもどうぞ。宛先は

千五一一四 三重県津市上浜町一五一一五 三重大学地域共同研究センター 三重大学男女共同参画シンポジウム係

お問い合わせは

TEL 〇五二一六二二一四九二六

FAX 〇五二一六二四一六九五〇（高橋ますみ）

日本とフィリピンのODA会議と

現地視察ツアーに参加しませんか

今、フィリピンのODA（政府開発援助）の四〇％近くを日本のODAが占めています。しかし、そのODAのために、

フィリピンの人びとの生活は楽になるところか、ますます厳しい状況に追いやられています。

日本のODAがフィリピン社会の人びとにどのような影響をもたらしているかを現地へ行って自分の目で確かめてみませんか？この会議と視察は日本とフィリピンの人びとが其剣にODAについて考え話し合う場です。ぜひご参加下さい。

◆日程 一九九六年十一月十五日（金）ー二十日（土）  
十五日ー十七日 ODA会議に参加  
十七日ー二十日 ODA視察ツアー

日本のODAプロジェクトによって影響を受けた地域なども視察します。参加者は希望によりODAプロジェクトによって影響を受けた地域の家に滞在することもできます。

◆参加費 十四万円（会議参加費、航空運賃、ホテル代、食料代、現地運賃、視察ツアー代などを含む）

◆締切 十月三十一日

（人数に制限がありますので、お早めにお申し込み下さい）

◆主催 イホンフィリピン基金 フィリピン問題資料センター

◆問い合わせ

〔関東〕

TEL 〇三ー三三〇七ー一四八一（午前十時ー午後五時）

FAX 〇三ー三三〇七ー四八二四

〔関西〕

TEL 〇六ー三三八ー九〇七〇（午後八時ー十時）

FAX 〇六ー三三八ー九〇七〇

## 写真展「ジエンダー 記憶の淵から」 東京都写真美術館で開催中

私たちの性意識は現在、激しく揺らいでいます。ジェンダー（社会的・文化的・経済的価値観によって形成されますが、既存の価値観がさまざまなところで変化している現在、ジェンダーやセクシュアリティの問題が、現代美術の、特に女性アーティストにとって重要なテーマになっているのはむしろ当然の事かもしれません。

一九七〇年代から特に顕著となる女性アーティストの活躍は、作品に表現される女性の固定的なイメージやその描かれ方に、言い換えれば、それまで自然と思われてきた女性性や女性役割に違和感をおぼえたところから始まりました。歴史や社会の中心から日常的に「他者」として位置づけられてきた彼女たちは、「女性とは何か」という命題に取り組み始めた

のです。また、それは同時に「男性とは何か」という問いも突きつけます。

セクシュアリティやジェンダーを扱った芸術作品には、しばしば「記憶」というキーワードが現れます。それは、これらの問題が人間の内面の深層までに根本的な影響を及ぼすものだからでしょう。私たちの存在は、過去への思いと未来への思いの上に成り立っています。一人一人の存在はまた、個人的な「記憶」ばかりではなく、歴史的・社会的な「記憶」によっても規定されています。これらの展示は「記憶」の中に自己の存在を問いなおし、「記憶」をキーワードに変容するジェンダーやセクシュアリティ、さらに、性別、人種、民族階級、年齢を超えて「お互いにより良く共に存在する」ためのプロセスを浮き彫りにした現代の一面を考えさせられます。

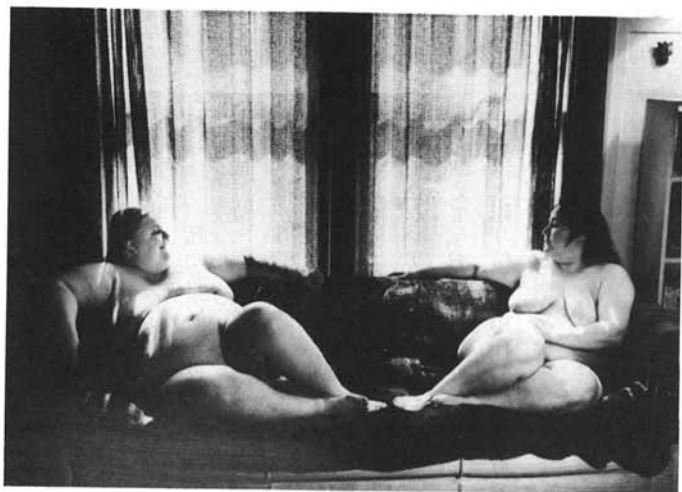
この展覧会で観られる四人のアーティストの作品をご紹介します。まず嶋田美子さんの従軍慰安婦に関する一連の作品です。嶋田さんは一九三〇年代から四〇年代にかけて「女性と戦争」「従軍慰安婦」をテーマに作品を創り続けています。元従軍慰安婦の現在の表情を象徴的にとらえた写真に、戦時中の、戦争を奨励する新聞記事がオーバーラップした作品は、一枚でも強烈なショックを受けますが、たくさんのドキュメ

ントが一冊の赤い本の形になっていることでますます効果的にうったえており、痛ましくも観る者の魂を揺さぶらずにはいられません。

次にキャリー・メイ・ウィームスのアフリカン・アメリカンとしてのアイデンティティーを問題にした三十四点組は、一編の詩が三十四枚の写真によって表現されています。写真はアメリカに奴隷として連れて来られたアフリカ人の歴史を物語っています。奴隷としての過酷な労働で鞭打たれ続けた老人の背中や、白人家庭の家政婦として窮屈そうに家族写真の隅に収まっている女性、アメリカ兵として参戦する若者等々。悲しい歴史と同時に黒人としての誇りも感じられる作品です。

ハンナ・ウィルケは一九六〇年代から七〇年代に、自分自身の体で表現するパフォーマンス・アートで活躍しました。その頃は自分の裸体を連続写真で表すことに「ナルシズム」とレットルを貼られたようですが、晩年癌におかされ、病気の進行や度重なる手術で変わっていく彼女の体や、若い、母との葛藤を赤裸々に描いた大きなパネル写真は、その壮絶さにはばらくそこを動けなくなってしまうほどです。

最後はローリー・トビー・エディソン。彼女はスリムな女



ローリー・トビー・エディソン作  
「トレイシー・ブラックストーンとデビー・ノトキン」

性が美しいとする既成の価値観に疑問を投げかけています。彼女の作品は体重がゆうに百キロを超える女性たちのありのままの姿です。彼女たちの表情は卑屈なところが全く無く、

自然でのびのびして、ユーモラスでさえあります。

このような作品をいろいろと観ていると、確かに女性はマインリティーですが、世界の女性を「女性」として一括りにするのはあまりにも乱暴な気がしました。女性は社会的・文化的に「創られる」ものであり、それらの境遇によって、作品にもそれぞれ違った思いが強調されていることがよくわかります。「ジェンダー」という言葉は「社会的・文化的性差」と訳されますが、この展覧会がまさに丸ごと「ジェンダー」なのです。もっとも世界的な目で見ればこれらはほんの一部なのですが……。

(山田絵理子)

◆会期は十月二十七日(日)まで

主催 東京都写真美術館／朝日新聞社

東京都写真美術館はJR恵比寿駅より徒歩十分

(恵比寿ガーデンプレイス内)

開館時間 午前十時から午後六時まで

木・金曜日は午後八時まで(月曜休館)

観覧料

一般・大学生 六百元 小中高生 三百円

六十五歳以上は無料(証明書をお持ちください)

TEL

〇三―三二八〇―〇〇三三



## 「子育て終えたらパートで議員」

新聞記事のキャッチフレーズにひかれて、八月二十四日東京ウィメンズプラザへ。テレビ向けに華やかに前髪を高くされた樋口恵子さん、テレビ局からそのまま駆けつけられての基調講演。開口一番「鳩山新党には女性議員の姿が全く見えない。藤本義一さんは鳩山さんをハムレットになぞらえたが、私はマクベス夫人の気持ち」とおっしゃる。このところの国会の議事について、「通るべきもの（民法改正法案・NPO法案・公的介護法）が通らず、もつと女の意見を聞いて議論を尽くすべきもの（優生保護法―母体保護法）が通ってしまつた。法案の起草に関係しても、理事になっていないと情報がない。通そうとする方は、妥協に妥協を重ねて提出しているのに利益や損害といった金が絡み、党の中でもくるくる変

わる。日替わりメニューのよう」草の根封建おやじ三角同盟」樋口流の名せりふで怒りを込めて語られた。

厚生省の老人福祉審議会には、学識経験者七名に、医師・薬剤師・看護婦会・国民健康保険組合・市町村長会・労働組合など多彩な人びとがいる。国民健康保険のパンクを目前に慎重論が大勢を占めてしまふ上、さまざまな対立軸が内在している。現在五十歳の持ち親率は七〇％。老老介護の逃げ場はない。要するに金・金で感情より勘定。男女平等が嫌な人は長生きしないで下さい、と言いたくなる。負担をするのがイヤなのだ。「負担・負担と騒ぐな男、女が捨身で介護する」と、ここでも樋口流名せりふが飛び出した。

このあと元「朝日ジャーナル」編集長の下村満子さん、NHKの小宮山洋子さん、参議院議員の円より子さんの三人のパネリストがこもこも語つた。司会は産経新聞の高橋美幸さん。司会をしながら記事もしつかり書いておられた。

ピラミッド型の権力構造の男社会、既得権を持ち、容易にそれを手放さない男社会にそういつたシステムが生理的に嫌いな女が切り込んでいくには、嫌な奴にもヨイショしたりと意にそまないことも我慢してやらなければならない。そして

どのボタンを押せばどのように動くかをしっかりと頭にたたき込んでいくしかない。そしてそれをやり続けて、積み重ねていく努力が必要となる。組織を動かすボタンの発見とクールな戦略を使える訓練・経験を積むしかないようだ。

ウーン、凡人には難しい!!

(野村三枝子)

## 大久野島で公開シンポジウム「毒ガス島から」

この九月から全国巡回が始まる「毒ガス展」に先立ち、広島県大久野島国民休暇村で公開シンポジウム「毒ガス島から―悪魔の兵器の廃絶をめざして」が、八月三十日から九月一日まで開催された。大久野島は「あこら220号」で会員の岡田黎子さんが学徒動員の体験記で述べられたように、旧日本軍の毒ガス兵器製造の拠点だった。大久野島を舞台に毒ガスをめぐる問題が総合的に議論されるのは初めてで、全国から二百人以上の参加者が集まり、この問題への関心が盛り上がっていることをうかがわせた。

メインシンポジウムは三十一日に開催され、午前中は報告午後はパネルディスカッションが行なわれた。オープニング

の記念講演で、黒竜江省社会科学学院副院長の歩平さんがスライドを交えて話されたとき、参加者は食い入るようにスライドに見入り、話に聞き入った。スライドはいずれも旧日本軍による遺棄毒ガス弾の被害者の状況を写していて、ひどい水ぶくれのようすなど目を覆うほどだった。

「日本軍が残した毒ガス弾による被害者は、貧しい人が多いです」と歩平さん。約四年前からの中国東北部を中心とする調査で、具体的に九十七人の被害者をつきとめたという。その六割は地中に埋めてあった毒ガス弾によって被害を受けている。知らずに持ち帰って毒液に触れ、傷害を負った被害者が多い。中国政府によると、死者を含めた被害者の数は二千人に及び、治療方法も十分ではない。被害者は苛酷な生活を強いられている。しかし、被害者の救済については、日本政府は全く動いていない。これに対して「中国人戦争被害者の要求を支える会」の弁護士たちから、今年十月中には、被害者十人が東京地裁に日本政府に補償を求めて提訴することが報告された（日程は未定）。

遺棄弾問題は一九九二年二月、ジュネーブの国連軍縮会議で中国政府が資料を提出したことから明らかになり、日本も



この条約に批准した。よって、遺棄毒ガス弾の十年以内の処理が義務付けられた。遺棄化学砲弾は推定二百万発以上、化学剤は百トンに達する。この処理問題に関しては、すでに大企業が水面下で動いているという。去年社会党調査団で訪中した栗原君子参議院議員がシンポジウム中に「処理費用は数千億円といわれているが、私たちの税金が使われるのだから金の流れをきちんとチェックすべき」と発言した。

その他の報告は、栗屋憲太郎さん(立教大学教授「東京裁判における毒ガス戦の免責」、山木戸道郎さん(広島大学教授)、栗原透さん(高知県七三一部隊展研究会会長)「土佐沖の海没毒ガスについて」、森亮一さん(七三一部隊展帯広実行委員会)「屈斜路湖の遺棄毒ガス弾問題」。土佐沖と屈斜路湖は、国内投棄の実例である。土佐沖の投棄場所は海底活断層の上なので、地震などで毒液のもれる危険性は十分ある。屈斜路湖への投棄は、昨年の九月に投棄者からの報告があつて初めて明らかになった。国内の投棄場所はこの他にも何か所明らかになっており、これからも新たに判明する可能性は十分ある。毒ガスはまさに国内問題なのだ。

午後のパネリストは吉見義明さん(中央大学教授、村上初

一さん(毒ガス島歴史研究所代表) 行武正万さん(忠海病院院長)、藤井秀夫さん(中国帰還者連絡会)、松野誠也さん(毒ガス展実行委員)。松野さんは今年三月に大学を卒業したばかりで、卒論で毒ガス戦をとりあげた。研究の中で防衛庁防衛研究所の旧軍資料をもとに、実戦での使用量、「きい弾びらん性ガス」の飛行機からの投下などの事実を発掘したことが報告された。しかし、非公開になっている資料も多いので、政府に完全公開を求める運動が必要だという声があがった。村上さんからは、今年七月に明らかになった大久野島の砒素汚染の報告、吉見さんからはアジア各地での遺棄の可能性、行武さんからは大久野島で働いていた被害者の現在、藤井さんからはご自身が参加した毒ガス戦の証言がそれぞれ報告された。

九月一日には、岐阜や宇都宮など、すでに独自に「毒ガス展」を開催したところからの報告があつた。特に注目されたのは高知県立須崎高校の生徒三人による報告。昨年から毒ガスの歴史を学びはじめ、九月末の文化祭で発表する計画だそう。制作されたビデオは前日夜に公開され、熱心な調査の姿に好感を持った。「自分の国のしたことを知らないのは悲し



須崎高校の生徒による報告

いことだと思えます。もっと勉強していきたい」という三人に、大きな拍手が寄せられた。

午後、地元・忠海小学校の先生のガイドによるフィールドワークに参加した。自転車で一週二時間もかからない狭い島のあちこちに、今も生々しいあとが残っている。毒ガス貯蔵庫は戦後すぐに米軍が火炎放射器で真っ黒になるまで焼き払い、毒性を除去した。焼けただれたコンクリートの壁は、焼く前は迷彩がほどこされて対岸の島からわからないようになっていたそう。その上対岸の島には「大久野島の方向は見えないように」との立て札が立てられていたという。

砒素が出たという現場も見したが、島の中でも調査されたところは一部だそう。砒素はルイサイト（びらん性ガス）の原材料の一つで分解する方法が見つからないため、砲弾処理のネックとなっている。

今は廃墟となった発電所の建物の中では、「風船爆弾」を作っていたそう。これは岡田繁子さんのような動員学徒の仕事だった。この建物は取り壊されそうになったが、広島県府中市の中学生が署名活動をして環境庁に働きかけ、その結果「修復はしないが、残しておく」ことになっている。

最後に慰靈碑を見た。慰靈碑には毒ガス生産に従事し、その被害で亡くなった方のお名前が納められている。一九九五年三月末現在で二〇四三人。毎年十月第一日曜に慰靈式が営まれている。

大久野島は、島自体が証言者であると言える。ここでシンボジウムが行なわれたことは、まさに歴史的な価値がある。加害者としてのヒロシマを感じるために、日本人が訪れるべきところだと思った。  
(芦澤礼子)

## 「毒ガス展」新宿を振り出しに全国巡回へ

九月十日から十六日の一週間、東京・新宿の新宿区民ギャラリーで「毒ガス展」が開催されました（あこらも賛同団体として協力）。

約五十枚の展示パネル、「大久野島毒ガス資料館」や個人の方からお借りした化学砲弾の模型・毒ガスマスクの実物などの貴重な展示物、新宿展だけの特別展示物として慶応大学からお借りした、当時の「七三部隊」記録文書（毒ガス人体実験記録を含む）などの豊富な展示内容でした。

イベントも毎日開催されました。十日は歩平さん（黒竜江省社会科学院副院長）武田英子さん（児童文学者、「地図から消された島」著者）戸井昌造さん（陸軍習志野学校出身、現著述業、十一日も講演）による対談、十二日は綿貫礼子さん（環境問題専門家）の講演、十三日は吉見義明中央大学教授の講演、十四日は合唱グループ「多摩じまん」の毒ガスをテーマにした新曲発表、十五日は「歩平さんと語る若者の集い」、十六日は歩平さんのスライドを交えた特別講演。その他、十日から十四日まで日替わりで「中国帰還者連絡会」のメンバーの証言があり、関連ビデオも上映されました。最終入場者数は延べ二千人。期間中に新たな証言者が四名も現われ、今後の新事実の発掘に大きな期待が持てました。

（今後の開催予定）

広島展 十二月十七日（火）～二十三日（祝）

広島県民文化センター（広島市中区大手町）

鹿児島展 九七年四月二十九日（火）～五月六日（火）

鹿児島県文化センター（鹿児島市山下町）

◆あなたの町でも「毒ガス展」を開催しませんか？

連絡先 東京連絡事務所

〒一六九 東京都新宿区高田馬場四一二八―三一二〇五

TEL/FAX 〇三―五三三〇―五二六六

## 北京会議フォローアップ

### アンペイドワーク・個人通報制度を考える

九月七日・八日の両日に渡って、〈国際女性の地位協会〉の合宿シンポジウム「アンペイドワーク・個人通報制度を考える」が、埼玉県の国立婦人教育会館で行なわれました。

七日に行なわれた「アンペイドワークを考える」のパネリストは久場嬉子さん（東京学芸大学教授）中島通子さん（弁護士）竹信三恵子さん（朝日新聞記者）コーディネーターは矢沢澄子さん（東京女子大学教授）。

久場さんは「アンペイドワークをめぐる国際的動向とわが国の現状」と題して、国連の世界行動計画におけるアンペイドワークの取り扱いの推移を説明し、特に一九八五年のナイロビ「将来戦略」に「婦人の報酬を伴う貢献、及び特に報酬を伴わない貢献を認め、これらの貢献を測定し、国民勘定・経済統計・GNPに反映させる努力がなされなければならな

い」という文章が入ったことが大切だと話されました。アンペイドワークをめぐるGOREベルの取り組みについては、カナダ・EU・OECDの例を提示し「数字がのらない限り除外され、経済統計からはずされる」ということで、ドイツ連邦統計局のプロシエクトを時間使用調査の例として紹介しました。「日本では、ペイワークが突出して男性に偏っているの

で、政策決定が男性にいつている。社員を家庭や社会の一員としてとらえるという新しい観点を、企業に入れさせなければならぬ」という指摘がありました。

竹信さんはご自身の職場体験・取材経験から「アンペイドワークを評価すると日本の社会はつぶれるようにできている」と発言。主婦が家事をすることを前提に企業は手当てをつける。土日やアフターファイブはアンペイドワーク時間なのに社員旅行や飲み会に付き合われ、しかもその時間に重要な決定がなされたりするので、参加しないと決定に参画できないなど、男性はアンペイドワークから遠ざけられる。か

けもちパートなどで働く女性は払われるべき賃金を得ていない。主婦がアンペイドワークを担われ、しかも専業主婦の存在価値アビールに使われる、などの構造を指摘しました。

中島さんは「日本の法制度とアンペイドワーク」と題して、法制度の中の世帯主義がアンペイドワークの性別による偏りを誘導し固定化していることを指摘。各分野別の改正の方向として①家族法……夫婦財産契約の拡大、離婚における財産分与の二分のルールを徹底、相続における妻の寄与分は夫ではなく妻自身への帰属にするなど。②雇用労働……労働時間の男女共通規制、世帯資金の廃止、同一価値労働同一賃金の徹底、育児・介護休暇の所得保障など③農業等自営業……家族経営協定の普及④税制……配偶者控除・配偶者特別控除の廃止、基礎控除の引き上げ⑤年金……パート労働者の厚生年金加入条件の緩和、第三号被保険者の基礎年金の保険料納付を義務付け、遺族年金見直し⑥医療保険・介護保険……家族介護者への現金給付などがあげられました。

後半のディスカッションは「アンペイドワーク問題を考える際の日本独特の困難を、どうやったら抜け出ることができなのか」という問題から始まり、「ボランティア活動の評価と家事労働の評価は違う」「家事労働がキャリアとして評価されないことに怒りを覚える」「アンペイドワークは主婦労働ではなく、すべての人がアンペイドワークを担える社会にすべき」

などの意見が出されました。

経済企画庁が来年度とにかく試算をしたいということで「労働の質をどう評価し、どう数値化するか」研究会を開いて研究中であるということが久場さんから報告されました。

「無報酬労働が数値化され経済統計に組み入れられたら援助される根拠を失うという考え方から、発展途上国は国際会議で反対した」という竹信さんからの報告もあり、アンペイドワーク問題の抱える困難さも感じました。(れ)

### 「男女共同参画社会」づくりに向けての全国会議」

九月二十五日(水)、男女共同参画推進本部・総理府主催で国立教育会館(虎ノ門ホール)で開催されたこの会議には、全国から千六百人あまりが参加しました。

基調講演は、猪口邦子上智大学教授による「男女共同参画社会を目指して」。猪口さんは米国留学から帰国後しばらく就職できなかった自己の体験をふまえ「逆風には女性が連帯して立ち向かう」ことを強調しました。ローカルなところから女性が女性を引き上げていく、男と違うポイントを生かす、

世界中の女の子がすべて就学できるように援助が必要、そのために援助国の意志決定者に女性が入ることが不可欠……などの提言をされました。そのあと、男女共同参画審議会の縫田曄子会長から「男女共同参画審議会答申（あごら）前号に概要を掲載」の報告とポイント説明がされました。

休憩後のシンポジウム「男女共同参画社会づくりを目指して——男女共同参画審議会答申をどう生かすか」のパネリストは岡澤恵美さん（早稲田大学教授）、清水照子さん（全国女性農業経営者会議会長）、山口みつ子さん（市川房枝記念会常務理事）、コーディネーターは藤原房子氏（ジャーナリスト）。

岡澤さんは「GNPなどの統計学的数字と生活実感にギャップがありすぎる。家庭は不満のぶつかりあいになっている。男性の家事育児権、女性の社会参画・労働権が共に確立されねばならない」と発言。清水さんは「農村女性の経営者会議会長になって多くの女性が支えてくれ、話し合いの場ができた」と報告。山口さんは「男女平等は憲法に保障された権利。女子差別撤廃条約の批准促進運動は大きかった。民間の活動が強くないと政府は動かせない。答申には私たちの意見も盛り込めた。北京会議の直撃によって明記されたことが多い」

と報告しました。

フロアから「農家の嫁不足で男性が困っている。そういう中で男女共同参画といっても……。息子が結婚できなくて弱っているおばあちゃんの姿ばかり目に浮かんできた。みんなが幸せになるような政策を」という農村地域の発言もありました。フロアからの発言時間が少なかったのは残念。（あ）

「あなたこれで損してない!？」

——コース別人事と均等法を考える集会

均等法制定から十年たちましたが、男女間の賃金差はむしろ拡大している状況です。労働省は現在均等法や労基法の女子保護規定の見直しをすすめており、今年七月十六日に「婦人少年問題審議会婦人部会における審議状況」について中間とりまとめが発表されました。昨年六月に結成された〈変えよう均等法ネットワーク〉では、この中間とりまとめが「女性の非正規雇用者の増加、男女間の賃金格差の増大、間接差別の横行、救済機関の不備」などについて不十分な内容であるということ、労働省に意見書を提出しました。

九月二十八日(土) 池袋・エポック10で〈変えよう均等法 ネットワークと働く女性のための弁護士〉共催の集会「あなただけで損してない!」が開かれ、特にコース別人事に重点を置いて話し合われました。

前半の発言者は大手保険会社勤務の門川淑子さん、銀行労働研究会の志賀寛子さん、弁護士の中野麻美さん。

門川さんは「私の職場では、一九八八年にコース別人事が導入されてから結果的に女性には差別された。高卒と短大卒は一般職でオール女性。大卒男性は総合職。大卒女性が総合職を受験すると合格率はゼロに近く、一般職での受験を勧められる。総合職への転職試験もあるが、転職すれば働きすぎになる。近年、転職のない総合職とすることで、業務職が導入されたが、転職試験が結構難しいにも関わらず、仕事は一般職と大して変わらないし給料も上がらない。一般職は業務職導入で事実上給料が切り下げられた。総合職の男性は業務職に仕事を押しつけるようになり、毎日九時十時まで残業させられている。会社側は一般職を減らして派遣・パート・別会社への委託でコスト削減を計っている」という実態を報告。

志賀さんは「コース別人事は大企業、特に女性が多い職場

に導入された。最近はそのコースの細分化が進んでいる。コース別の本質は女性の人件費の押さえ込み。企業は女性が早くやめることを前提に人事制度を作ってきたが、女性がやめなくなったので別の人事システムを作らざるを得なくなった。それがコース別、というのが企業の言い分。間接差別禁止の条項と、ポジティブ・アクションを均等法に盛り込ませなければいけない」と発言。

中野さんは南海放送、丸子警報機などの裁判の実例をあげながら「均等法に制裁措置がないのも問題だが、募集・採用区分を越えて格差を問題にすることができないのが一番の欠陥。同じ職種・同じコースの中で採用された男女の間の格差しか問題にできない形なので、例えば婦人少年室に調停を依頼しても、均等法では処理できない」と言われてしまう。実際は女性の仕事の内容は十年前よりずっとハードになっているのに、一般職からの転職はなかなか認められない。でも、もし均等法で採用区分の問題が改善されなかったとしても、是正の道はある。労働省ではコース内に性の著しい偏りがあったりコース間に処遇の隔たりがあったりしてはならない、というガイドラインを打ち出している。しかしこれにも限界

があるので、もっと多くの人に法的問いかけをしてほしい」と発言し、コース別雇用管理を斬るチェックポイント表を提示しました。三人の話を受けて、総合職、銀行一般職、商社生保、広告代理店、SE（月刊残業二百時間）、航空会社編集、大手メーカーなど、さまざまな職種で働く女性から差別の実態が報告されました。

後半は弁護士の中島通子さんから「こう変えよう均等法」というテーマでお話。「女性の雇用調節は企業の安全弁的役割にされていて、均等法は機能を果たしていない。コース別採用は企業の五〇％、これから導入のところを含めると六〇％に達している。非正社員の比率も増え、しかも働く時間は正社員と変わらない。日本では、同一価値労働・同一賃金の原則ができていないので、具体的なガイドラインが必要。今要求すべきことは、すべての雇用上の性差別を制裁付きで禁止すること。女子保護規定を今のままで撤廃するのは非常に危険で、働きすぎを是正するためには男女共通の保護規制を設けなければならない」と発言。そのあと大脇雅子参議院議員から議員立法の進行状況と審議会の状況が報告されました。「国会解散の空白を利用して、労働省が一気に改正を推し進

めようとしているのに危惧を持つ。十月には審議会が四回開かれるということがすでに決定している。論点は法のワク組みをどうするか、努力義務をどこまで禁止規定にしていくなかなど。第二次均等法はポジティブ・アクションやセクシュアル・ハラスメント禁止規定を含むべき。国際的な基準にも配慮しなければならない」とのことです。

集会の結びとして「八月一日から九月三十日まで、労働省が婦人少年問題審議会（労働省の諮問機関）婦人部会に向けて均等法への意見を求めているので、男女共通のより高い視点に立った意見FAXを寄せて下さい」と呼びかけがありました。労働省が専用のFAX回線を設けるのは初めてで、集会の中でも一応評価されていました。九月二十五日時点での新聞報道によれば、二十四日現在で九千通、十九日までに届いた内容を集約すると、九割近くが地方公務員からの意見で企業雇用者は二％ほどということでした。十月一日に労働省に電話で問い合わせたところ「最終的に一万通は確実に越えた。現在集約に追われている」そうです。

◆へ変えよう均等法ネットワーク 連絡先



TEL 〇三―三九四〇―三八九二(野崎方)

◆「あこら」でも均等法を特集する予定です。ぜひ実態やご意見をお寄せ下さい。(編集部)

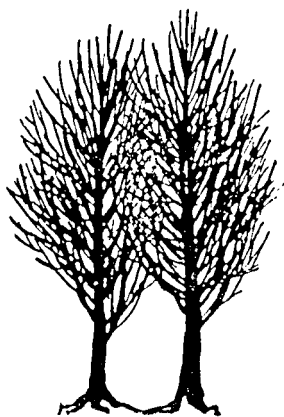
## デイシジョン・メイキングへの女性の参画

社団法人大学婦人協会は九月二十九日(日)、政策決定・意志決定の場に女性がどう参画するかをテーマに、東京・新宿でセミナー「デイシジョン・メイキングへの女性の参画」を開催しました。

午前中は昨年の「国際大学婦人連盟横浜大会」報告と「平和学」研究の中間報告のあと、ジャーナリストの下村満子さんによる講演「何故、女性がデイシジョン・メイキングに参画しなければならぬのか」。下村さんは、一昨日出演した「朝まで生テレビ」のテーマ「こんな日本に誰がした!」や「朝日ジャーナル」編集長時代の経験を例にしながら「女性問題は女だけで話しても堂々めぐり。女性問題はつまり、人間の問題」。今は文明の大きな転換期で、従来の価値観自体が崩れようとしている。女と男の関係も変化してるのに、旧来の意

識は中途半端に残っている。新しい文明の創設に女が参画することは歴史の必然。しかし権力指向はダメ。二一世紀はネットワークの時代」と力強い提言をされました。

午後は各地方支部(岡山、神戸、茨城、新潟、栃木、大阪、福岡、大分、奈良、静岡、愛知)からの報告とティスカッション。管理職者や議員に対するアンケートをもとに、女性の参画の実態と女性が出にくい原因(社会システムの不備、役割分担意識の根強さなど)それを克服する方策(クォータ制導入促進、教育への要求、マスメディアへの要求)などが話し合われました。女性自身も臆病にならず、勇気を出して参画しよう!という意見も多くみられました。(R)



今こそ沖縄の声を！

沖縄のへあごろゝ会員からメッセーシ

八月二十八日最高裁判決、九月八日県民投票、その直後九月十三日、大田昌秀知事の「公告・縦覧」応諾の表明……。現地ではどのように受けとめておられるのか、編集部からの問いかけに会員の方々から熱いメッセーシが寄せられました。揺れ動いた沖縄。今こそ沖縄の声を聞いてください。

基地の縮小・撤去をあくまでも求める

全国のへあごろゝ会員の皆さま

占領敗戦、分割米軍支配、そして日本政府による二十四年の差別行政が、この小さな島国・沖縄に押しつけられてきました。

思えば、住民はそのたびに、ことあるごとに抵抗し自立を求めたのですが、大の虫を生かすために小の虫は踏みつぶされ、ある時はトカゲの尾よろしく切り捨てられたものでした。

宿命のごとき基地の島オキナワが、昨年九月四日の一少女の勇氣に突き動かされて、「これ以上の暴力は許さない」と立ち上がり、米軍基地の整理縮小（二〇一五年までに撤去）を求め、国内・国外へもメッセーシを送り続けました。「知らな過ぎた」現状をはじめ具体的に知った「米軍基地の問題は日本全体の問題だ」……など、日本の外交や軍事戦略にまで思いを寄せ、日米安全保障条約はこれいいのかという問題Ⅱ国政の根幹に女たち市民たちの目が届くまでに輪が大きく広がっていきました。

女性や子どもたちが安心して暮らせる社会を、との素朴で当然の願いが、実は大きな政治課題であり、アジア・アメリカの人々の共感を呼ぶ、共通の非暴力・非軍事の平和理念に通ずる課題でした。この約一年間の運動で、女たちは自分の目で、自分の身体でそのことを確かめることができ、大きく成長し、展望を拓くことができました。

今年四月以来、橋本・大田会談という大芝居が演じられました。しくまれたシナリオは再び三たび、お金の威力で屈伏させる屈辱的・抽象的なものですが、沖縄の知事は「拒否し続けることで展望は開けない」「県民のために実をと

## 沖縄から

る」などの考え方を示し、軍用地の公告・縦覧に応じる方針を発表しました。大田さん、貴方もですか？

しよせん、「行政の限界」をくり返し言うでしょう。その時は、知事就任の公約を破る方針転換の経過をはっきりと県民に語り、信を問うべきだと思います。

長くなりそうです。全国の会員の皆さん、へ基地・軍隊を許さない行動する女たちの会は、これまでどおり、否、これまで以上に、国内外の女性たちの連帯を求め闘い続けます。日本という国は本当に平和かどうか。アジアの女性たち、あるいは世界の女性たちからどう理解されているのか。共生と非暴力を合言葉に、武器によらない国際関係を求めて。

九月十七日・橋本が沖縄に来る日。

〔桑江テル子〕

沖縄は札束で売られたのか

「五十億円で沖縄が売られたような気がする」——八月十日、大田沖縄県知事・橋本首相会談で首相が、安保の重要性を強調しつつ、具体案の何もない（基地の整理・縮小、日米地位協定の見直しに努力するという）リップ・サービ

スと、沖縄復興の特別調整費五十億円の計上を表明したことに對して、私の友人はそう語った。それはおそらく、多くのウチナンチュの偽らざる気持ちであつたろう。

このニュースに接したとき、私の胸に沸きおこったのは、札束で頬をひっぱたかれたような屈辱「人を馬鹿にするのもほどがある」という怒りと同時に、「復帰」以降、大量に注ぎ込まれてきた国のカネ（補助金）によつて瀕死の重体にあえいでいる沖縄の島々がさらに追い打ちをかけられていく姿であつた。

沖縄の人びとが基地に「ノー」の声をあげるたびに、日本政府は札束でその怒りをなだめようとしてきた。一九七二年の「復帰」から九五年度までに日本政府が沖縄に惜し気もなく与えた振興開発事業費（といっても、その出所は民衆からしぼりとった血税であるが）の累計は四兆五八七〇億円にのぼり、その補助率は他府県をはるかに上回る八〇%前後となっているが、それは、「日本（政府）の安全」のために米軍基地を沖縄に固定する見返りとしてであり、「基地のない平和な島」を求める沖縄の人々の願いを札束でねじ伏せるためにほかならなかつた。

そして、高率補助金による開発の嵐は、繊細でもろい沖縄の島しょ生態系をスタスタに破壊してきた。沖縄の基地問題と環境問題は、一つのコインの両側のように表裏一体のものだと私は思っている。

九月十三日、大田知事が米軍用地強制使用手続きの公告縦覧代行に応じたのを受けて、九月十七日、橋本首相は沖縄を訪れた。

私の所属する一坪反戦地主会は、首相が「県民へのメッセージ」と題して講演する宜野湾市の沖縄コンベンションセンター前で緊急抗議集会を行ない、「橋本糾弾!」「基地撤去・県内移設反対!」の声をあげた。緊急のため、人数はそれほど多くなかったが、集まった人々の激しい怒りが一つの炎となり、九月とはいえなお灼熱の亜熱帯の陽ざしとあいまって燃え上がるような錯覚にとらわれた。

私は、私の立っている地面の底から突きあげられるような思いでシュプレヒコールを叫んでいた。突きあげているのは明らかに、沖縄戦で無念の死を遂げねばならなかった人々の魂であり、また、私たちにつらなる未だ生まれぬ魂たちであった。

那覇空港に降り立ってから再び飛行機に乗り込むまでわずか二時間半。講演を終えるや、逃げるように猛スピードで私たちの前を走り去った橋本は、いったい何をしに来たのか?「県民を愚弄しに来たとしたか思えない」「基地を押しつけに来た」——次々と怒りの声があがる。九月八日の県民投票で示された県民の意思に反する大田知事や県の方針転換に対する批判も多かった。

県民投票の投票率五九・五三%（うち賛成票八九%）という数字については、「大成功」から「失敗」まで、さまざまな評価がある。私自身は、少なくとも七〇%は行くだろうと思っていたので、いささかショックではあったが、四割の棄権の意味を考えることは、沖縄の未来にとって決してマイナスではない。「基地撤去」を願うから、「基地の（存続を前提とした）整理・縮小」には賛成できないと棄権した人もいる。この半世紀のあいだに否応なく、構造的に深く組み込まれてしまった基地経済という現実を悩む人もいる。投票に向けた運動のありかた——「賛成に○を」という上（行政）からの押しつけに反発して棄権した人もいる。

八月二十八日の代理署名訴訟最高裁判決（沖縄県知事敗

訴)には、怒りつつも、「やっぱり」と冷静に受けとめた沖縄の人びとも、県民投票直後の知事の方針転換には怒り・落胆・困惑の色を隠せない。ある知人は「県民投票について何だったの!? やらないほうがよかったんじゃないの」と不満をぶちまけた。

しかし、さまざまな不備や問題点があり、その後の状況の変化があったとしても、自らの意思を、他者を通してではなく直接に表明するという経験を経たことは、沖縄の人びとにとってかけがえのないものであり、今後歩むべき自立への道の第一歩であったと私は思う。

とりわけ、女性の投票率が地域を問わずどこでも、男性よりほぼ5%多かったのは特筆すべきことだった。男性よりも経済や社会の利害関係に組み込まれることの少ない女性の強みに加えて、一年前の米兵による少女強かん事件を自らの痛みとして引き受け、より根源的で多彩な運動を展開してきた女たちの歩みがあったればこそであろう。

「自分のことは自分で決めたい」というのが県民投票に足を運んだ人びとの共通の思いであったとすれば、日本という国家の下僕と成り下がった裁判所がどのような判決を

下そうと、日本という国家の中の一組織である県がどう動く、その思いは強まりこそすれ、なくなることはないだろう。「独立」ということがさきりげなく語られはじめている今、橋本首相のメッセージにあるのとはまったく別の意味で「新しい出発点」に立ったのだと思う。

(九月十八日) (浦島 悦子)

「沖縄」は「地域」ではなく「人権」の問題

①最高裁判決について…「裁判所・司法は国の番犬か」と言った人がいましたが、全く同感。どこを向いても国民不在を強く感じます。

②県民投票について…基地撤去が一番と思うし、武力で平和を勝ち取る、といった発想をいい加減なくし、武力を地上から全てなくす方向に動いてほしいと切に願います。投票の内容が今一つわかりにくく、もっと明確にしてほしかったと思いますが、まずは第一歩という願いを込めて、賛成に○をしました。

昨年県民大会より県民投票へという流れの中で、メディアは沖縄をすいぶん取り上げるようになってきたとは思っ

けれど、もっともつと足りないし、深く掘り下げていかなければわからないことが多い。長い目をもった取材が必要で、同じニュースキャスターでも長期滞在している人は感想が違ってくるように思いました。

いろいろな思いをもっている人たちがいるので、結果については数値を見てあれこれ簡単には言えません。が、どのような行動をとったとしても、それぞれとても考えた上でのことだったということで、無関心票はほとんどないだろうとの大方の見方です。が、あえて明らかにするとするならば、那覇市を中心に「転勤族」という、本土から来て少なれば二年で戻ってしまうという人たちが多勢います。また沖縄のリゾート目的で住んでしまっている「ナイチャ」という人たちもいます。その人たちが人口のどのくらいの割合を占めるのか、まるきりわかりません。現在子どもが通っている児童数千人あまりの小学校では、三分の一が転勤族という話ですから、この地域はそういった人たちが多いのでしょうか。その人たちの無関心票が、私はとても気になりました。この地域で投票に行った人はとても少ないというのが実情です。かく言う私も転勤族の部類に入る

かと思いますが、これは沖縄だけの問題ではないと思いますし、今いる自分の場について、もつと関心を示してもいいはずだと思います。中にはとても熱心に沖縄問題のことを勉強している人たちもいるらしいですが、基地というその地域だけの政治的な問題ではなくて、人権が著しく侵害されているという、全ての人に共通する問題としてとらえれば無関心でなどいられないと思うのですが。〔M・H〕

本土の人にもつと知ってもらいたい

この度、沖縄在住ということでお葉書をいただき、「やっぱりきたか」というような思いと「まだ私は何もしていない」という恥ずかしいような思いとで、なかなか書けないでいました。葉書には書ききれなかったので、こちら（便箋）に書かせていただきます。

実は私が沖縄へきたのは、最初は喜納昌吉の平和への運動に参加するため、（あごろんにも年賀状ですいぶん勇ましく宣言していました。が、子どもも連れて沖縄へ来てしまつて、住みはじめて、何かととても大きなギャップを感じはじめたのです。昌吉にも沖縄の生活にも、非常な

## 沖縄から

違和感でなかなか進んでいけないものがあるのです。それが何か、はっきりと表現できないので、自分でもとても歯がゆいのです。ただ、昌吉とは歩く道が違ふと思ひ（彼の男性思考と政治的手法では、本当のものの事の解決にはならないと確信したので）離れ、自分たちに合ったやり方で子どもたちに残せる未来を築いていきたいと思っています。私はパッチワークキルトが大好きで、東京の仲間たちと離れてもつながりを持ちたいと、交換日記ふふのサークルを作っています。その八名の仲間たちに沖縄のことを知ってもらおうと、ノートに書いて回覧してもらいました。沖縄へ来たことがなくて、ふつうにTVのニュースを見ているだけでは、今の沖縄の実情が全く伝わらないと目頃から思っていました。私自身も勉強不足で、認識が甘いことは重々承知の上で、その時自分の感じることを知ってもらうだけでも、皆がそれぞれの問題意識を向けてくれる一歩となるのでは、と思いました。

『あーら』217号にあるような話を、もっと一般の（本土の）人たちが知れば、政治家や行政だけが騒ぐような沖縄問題ではなくなると思うのです。基地があることで、ど

んなに人権がふみにじられているのかと、具体的にわからなければはじまらないのでは。本土にいる普通に生活している人たちにもっと目で見てわかるような伝わり方があれば。

ここまで書いていて、何か自分の中でうまく表現できないもどかしさに、そのままペンを置いてしまっていたら、締切を過ぎてしまいました。どうしようかと思ひ迷いましたが、今のままの自分なのでお送りいたします。サークル仲間ノートしてから半年経ち、その間にずいぶん情況が変わり、何か県内でもトーンダウンしているような気がしてなりません。このままですんでしまふようなことがあってはならないと思います。（九月二十四日）（堀田眞由美）

### 基地・軍隊・性暴力を許さない

#### 9・4 リレートーク

沖縄の少女強かん事件から一年——九月四日の夕方五時半から〈NO！レイプ NO！ベース 女たちの会〉が東京・渋谷駅ハチ公前でリレートークを開催しました。沖縄の闘いの発端となった少女の勇気を忘れまい、そして県

民投票への連帯の思いを表わそうという趣旨で開かれたものです。

オープニングには玉城(たまぐしき)流敏風(びんぷう)会・大平澄子舞踊研究所の皆さんによる華麗な琉球舞踊が行なわれ、一般の人たちも数多く足を止めて見入っていました。そのあと、沖縄県出身の仲曾根京子さんの「友人の母が米兵に殺害されて…」という渾身の訴えを皮切りに、ウチナンチューの女性、ヤマトの女性十人が次々にハンドマイクで基地被害や女性の人権の尊重を訴えました。同時に沖縄の女たちへの連帯の寄せ書きも取り組まれ、多くのメッセージが寄せられました。垣花(かきのはな)噺子さんの三線と島歌を挟み、最後は全員で「花」を合唱して幕を閉じました。ハチ公前の集会は、最近ほとんど人が足をとめなくなっていますが、沖縄の歌と踊り、心からの叫びに、珍しく人の輪ができたひとときでした。(あ)

# 「県民投票を成功させる意見広告」

## 九月七日に沖縄一紙に掲載

九月七日付「琉球新報」「沖縄タイムス」朝刊に、〈県民投

票を成功させる意見広告の令〉賛同者の氏名を列ねた一面広告が掲載されました。「二十一世紀に向け、清ら島沖縄のニヌファ星(北極星)とは何だろ?」と題された広告は、二十一世紀に向かって旅立つ沖縄をイメージしています。

〈県民投票を成功させる意見広告の令〉は、他県で働く沖縄県出身者が中心になって、「投票権はなくても何かの形で私たちの気持ちをあらわそう」という趣旨のもとに、七月上旬に結成されたものです。三〇〇〇人の賛同者を目標に活動を開始しましたが、沖縄県出身者のみならず、ヤマトンチュも含めた運動に広がり、最終的に賛同者は四七九八名(締切以降の賛同者を含めると、九月十二日現在で四九二六名)となりました。賛同金が当初の予定を上回ったため、〈権利と財産を守る軍用地主会(反戦地主会)〉など、沖縄の問題で活動する団体にも送られる予定だそうです。

## 9・8沖縄県民投票と連帯する

### 模擬投票

県民投票当日、〈沖縄県民投票と連帯する模擬投票実行委員会〉の呼び掛けで、全国各地(約百か所)で模擬投票が



## 沖縄から



行なわれました。結果は即日集約され、翌九日に沖縄県知事公室に伝えられました。東京・渋谷の投票所では九月四日のリレートークに参加した大平澄子舞踊研究所の皆さんが琉球舞踊で花を添え、寄せ書きにも協力してくださる方が目立ちました。集約結果は以下の通りです。

〔全国合計〕 投票数九四〇九九票

賛成九〇三二九票（九五・八九％） 反対三三三九票

〔関東合計〕 投票数一一四〇七票

賛成一一〇二〇票（九六・六一％） 反対三〇九票

〔東京合計〕 投票数七八八票

賛成七六一四票（九六・七七％） 反対二二票

### 「百万人署名」活動、進行中

『あこら』前号でご協力を呼び掛けた「沖縄の米軍用地強制使用のための特別立法に反対する百万人署名」の実行委員会は、第一次全国署名活動として、九月四日・七日・八日に集中的に街頭署名を呼び掛けました。その結果、三日間で計七十四か所・九六七五名の署名が集まりました。第二次全国署名活動は九月二十二日から二十四日の三日間行なわれました。この結果は現在集約中ですが、事務局によると十月二日現在で約三万人分集まっているそうです。

〔連絡先〕 〒一〇一 東京都千代田区三崎町三一―一八  
近江ビル四階 TEL 〇三―五二七五―五九八九

いま阪神は……

禍を転じて福にしています

兵庫県・宝塚市在住で、阪神大震災で被災された「あこら」会員、高木由利子さんから近況報告のお便りをいただきました。

\*

「あこら」の息の長い阪神へのとり組みには、頭の下がる思いです。私の方にまで、いろいろご心配頂き、本当に有難うございました。今度の災害でありがたかったことの一つは、全国からたくさんの方の善意、ご厚意を頂いたことです。北海道から手弁当でかけつけて下さった方もあり、感激しましたが、グループの中では「あこら」の間髪を入れぬ取り組み、しかもそれを継続なさるご努力、真ごころに深い感銘を受けました。

おかげさまで、昨年は無我夢中の一年でしたが、今年は建て替えた住居で、仕事場も、以前より使いやすく設計しましたので、毎日快適に暮らしております。

私の住んでいる仁川周辺は三十年ほど前に開発された新

興住宅地で、ちょうど、家を建て替えずには、と思っていたところでした。この一帯はもろに被害を受けましたが、半壊、全壊した住宅は、ほとんど修理・建て替えが終わりしました。まだところどころ建築中の家がありますが、去年は道路を埋めつくしていた工事車もめっきり少なくなりました。ただ近くの中学校の建て替えのため、家の前をコンクリートミキサー車がよく地ひびきをたてて通るので、「地震？」と勘違いすることはよくありますが……。

地区の再開発の計画がある駅前周辺などは、計画がきちんと決まるまで勝手に手が付けられないので、とりあえず仮設で商売をしている所も、西宮北口周辺ではよく見かけます。神戸は、だいぶ復興したとはいえ、三宮センター街にはアーケードがなく、大丸もまだ昔の新館しか営業してなくて淋しいです。

昨年の夏、仮設事務所です仕事をしていた時、あの暑さ（クーラーもきかない）には参りました。みんな頭にアイズノンをくくりつけて、仕事をしていました。二年目の夏も、まだあの苛酷な生活を強いられる仮設住宅にいらつしやる方は、まわりが大分落ち着いてきて、きれいな家がどんど

ん建つてきているので、余計お気の毒に思えます。

新聞などマスコミは、災害の負の部分ばかり強調します。もちろん新聞・マスコミの使命としては、それでよいと思いますが、この大地震を体験した者の、ある一つの感想として、大地震のあと、とても悲観的・消極的・病的になっていくタイプの人間と、普段眠っていた自分の力をどんどん出して、かえって元気になっていくタイプの人間との二種類があると思いました。

私を含め、私の周りの人たちは、後者のタイプの人間が多かったようです。長年不眠症に悩まされていましたが、大地震のあと、家中のこわれたものの後片付けや、水くみ、食料の調達、親戚・従業員の安否の確認など、することは山のようにあり、毎晩横になったら、とにかく疲れて、不眠症などというのは、一種のせいたく病だと思ひ知りました。私の友人も、五十肩で病院通いをしていたのに、地震の後片付けに毎日毎日否応なく手足を動かしていたら、気がついたら知らぬ間に治ってしまったという笑い話もあります。友だちのお嬢さんも、風邪をひきやすく、その日も調子が悪くて病院へ行ったら、病院がつぶれていて、

お医者さんが血を流しながら働いているのをみて、びっくりして「こんなことしちゃおれない」と思つて、それ以来何だか元気になってしまったと、これは本人から聞いた話です。

何事も、物事を前向きに、プラス思考で考えていき、どんどん元気で日常を取り戻しておりますので、私の方のことは、どうぞ御放念下さいませ。家と作業場と二軒も建て替えたので、また今から借金もできましたが（窮状につけこまれて、建築費がどんどん高騰したのには驚きました。

——二軒目の時は、一軒目よりさらに高くなっていました。借金返済も、仕事を続けていくバネにしていきたいと思っています。

皆様のご活躍に、ささやかですが講読という形でこれからも参加させて頂きたいと思っています。

（高木さんは、『わいふ』の創刊者、そのひたむきな努力と、創刊当初の『わいふ』のユニークさが、『暮しの手帖』で高く評価されました。ご自身で和文タイプを打って、『わいふ』を出していらしたのですが、今では従業員十人の印刷所に発展しました。）

被災者に対する公的援助制度を！

市民Ⅱ議員立法実現に向けて集会

大震災から一年九か月たちますが、『あごろ』でもお知らせしているように、被災者の生活再建は今も厳しいというのが現状です。

被災者の生活基盤の回復と住宅の再建を促進するための公的援助の実現に向けて「市民立法」（略称「生活再建援助法案」）を提唱している（阪神・淡路大震災被災地からの緊急要求声明の令は、九月二十八日（土）、二十九日（日）の両日、兵庫県芦屋市で、第一回「市民Ⅱ議員立法推進集会」を開催しました。

三月に作家の小田実さんらが兵庫県庁で発表した「阪神・淡路大震災被災地からの緊急・要求声明」に対して、被災地で約六千人、被災地外で約九千人の署名が集まり、それを受けて「生活再建援助法案」が五月二十九日に発表されました。この法案は阪神大震災だけではなく、大災害（雲仙普賢岳噴火、北海道南西沖地震、もんじゅ事故など）により想定される被害）において「被災地域に住居を有し

ていた市民の生活と住居の被害に対し、国と自治体はその生活再建を支援し、住宅の再建・確保を促進するための公的援助資金の給付などを行うことを目的とする（第一条より抜粋）ものです。

八月三十日には市民立法実現へ向けての要請行動を行い、九月二十六日に（市民Ⅱ議員立法推進本部）を設けると同時に、東京と兵庫の総選挙立候補予定者にアンケートを送付しました。九月二十五日現在、三十二人の国会議員が立法に賛同しています。

芦屋での集会に続き、東京でも集会が開かれます。

日時は十月十九日（土）午後一時半～五時

場所は文京シビックセンター二六階スカイホール（地下鉄後楽園駅下車徒歩一分、春日駅下車徒歩三分、JR水道橋駅下車徒歩七分）。参加費千円。

発言予定者は小田実さん、山村雅治さん（「声明の会」事務局長、中島絢子さん（阪神大震災被災女性を支える会）、その他賛同国会議員などです。

問い合わせは〇三―三八―三二六五八四。

## あこら読書室

### 性差別主義と戦争システム

ベティ・リアドン著

山下 史訳

勁草書房

う幻想をつき崩されていた日々、心の傷を癒してくれるものに出会えるとの期待をもってこの書を読んだ。

B・リアドンはこの本の目的を「性差別主義と戦争システムが一つの共通する問題、すなわち、社会的暴力の相互に依存する二つの表れであることの立証(P14)」と言う。

戦争が暴力であることは誰でもわかる。しかし、性暴力と言えはすぐ頭に浮かぶ「強姦」だけが性差別主義だろうか。

レイプの本質は……力と暴力で脅かして……人びとに従属と従順を強いる……生き延びるための力への服従がある(P70)「生き延びるための服従——ここにきてハタと思い当たる。三従の教

え——娘の時は父、妻になると夫、年取ると子どもに従え、就職氷河期のゆき着く先、結婚にしか食べる道がなかったら答えは服従。つまり性差別も戦争システムも「人間は根底では物理的生存を最高の価値と考えているとの仮定に立つ(P71)」からこそ暴力第一になる。

では戦争システムの定義はどうか。

「権威主義的原则を基盤とし、人間の間には不平等な価値があることを仮定し……競争的社会秩序の意味(P22)」と、ある。学校の成績順位等に始まってあの悪名高いゼネコン汚職の競争入札まで、競争的社会秩序なら私たちはそれをすんなり受け入れていないだろうか。今、クリントンのイラクへの軍事行動を支持しているアメリカ国民のように、もしも軍隊によって安全が保障されるなら「国家の管理する組織化された暴

沖縄で高里鈴代さんの事務所に寄った時、アメリカの大学で「平和学セミナー」をもうけ、米軍基地の是非をめぐる討論をされた話をうかがった。この本の存在はその折に知った。フェミニズムと平和運動がむすびつく——その考えにひき寄せられた。

湾岸戦争からカンボジア・ゴラン高原へと平和訴訟原告団の一人として参加して、平和運動をしている男性こそは性差別を否定しているだろうとい

力の構造(P29)」を支える。

フェミニストたちが問題にしている肉体的力を男に、肉体的無力を女に仮定し、男性性を攻撃・暴力に、女性性を従順・依存に仕分けする文化の中の依存—支配の構造は戦争システムの強化につながる(P36)。そして、防衛費の負担は「真に無防備の人々、貧困者、弱者、女性、子供、老人が支払っている(P44)」(例えるなら消費税5%)。なぜ、こんなことになったのか。B・リアドンは「母親に対する一般的拒否の感情(P34)」を挙げているが、日本の実情は違うように思われる。

住専をめぐる話の中で、男と女で対立する解釈を聞いた。「母体行は責任をもつべきだ」という主張の理由として、昔、無権利だった女性が今や権利主張をするように、納税者が自己の権利にめざめよ(女性側)というのと、母がす

べてを一身に引きうけて子を守るように母体行もあらゆる努力を払うべし(男性側)というのがあった。

母イコール難題承り所という幻想があり否定はされてない。そのくせ有給の産休、育休にいたっては、母性保護と女性の不平等の固定化(P42)と組み合わさっている。これを解決すれば戦争システムの解除に向かうだろう。

母としてたてまつるふりをしながら犠牲を強いている日本社会も西欧白人社会とびつたり呼吸が合う。劣った者、奴隷的待遇に甘んずべきもの—女、先住民、非ヨーロッパ系人として対象化する一方で、気高い野蛮人、不思議なチエと能力をもつ人として理想化して、男性の性の道具とする(P97)。

では、この解決策の提案はないのか。「女性が、人間活動の全分野に、完全かつ公平に統合されるべきであると

する思想体系(P47)」「競争と疎外と分断化から協力と補完と統合へと進む社会の成熟化(P159)」「世界の安全は、各国が敵に匹敵する兵器を持つことで保たれるのではない。…自分らしさ…は、他者をおとしめたり、敵を打ち負かすことを必要としない(P162)」「非軍事化された世界の維持と発展に男女が平等に政治参加する(P168)」

しかし、著者はバラ色の夢だけを描いてはいない。私たちの中にある唯一の敵は、他者への恐怖だと見すえる。「女は他者だ」という定義を思い出す。異質なもののへの排除。女は社会から排除されている自分自身を一番受け入れにくくされているのではないか。思春期にあらわれる拒食症と過食症、内なる他者と折り合いをつけ受け入れる。これこそが、平和を創り出す第一歩としての生活態度だとわかる。その意味

では、産業社会に労働力として価値づけられすつかりからめとられている男性たちよりも、人間の誕生から末期まで日々かわり、人生全体から、一人の人間が幼年期・青年期・壮年期・老年期へと異質を体験してゆくことを身をもって知りやすい女性たちは恵まれているといえよう。

まずは、恐怖に目をつぶるまい。

(飯岡 祐保)

(四六判一八二ページ 一七五一円)

## 天に轟け 地に潤せ

寺沢潤世著

地湧社

「あごろ」208号に引き続き、この号にも、「寺沢上人」の名が見える。湾岸戦争を阻止しようとサウジ・イラク国境にピーステントを張って祈り続けた寺沢潤世氏は、日本山妙法寺の僧

侶。高校時代から經典に親しんで、つ

いに道を求めて家出、叔父の友人の僧坊に入り、そこで終生の師、藤井日達上人に出会う。立教大学独文科在学中に日達上人の手で得度、以来インドに五年、ヨーロッパに十五年、今はチェンチェンで平和を祈り続けている——と書いたのでは、上人の実像は浮かび上がらない。一度でも上人の言動に接した人は、今でも少年のようなすきとおった目、純粹無垢の心を持ち続けている成人がいることに驚く。

この本は、その上人の自叙伝である。父は戦争、母は空襲で九死に一生を得、幼い日に繰り返し聞かされた反戦平和の思いが生きる原点になったこと。小学校高学年から中学にかけて熱中したピアノ。そして日曜学校、福音書。自然を求めている模索や読書の中から、「本当の生き方」を求めてついに得度する

までの心の軌跡。

釈尊の聖地インドで、我が身を滅ぼすほどの祈りをこめた修行を、「自己満足」と師に戒められ、連日連夜、「ナイヤガラ」の滝に打たれるような「厳しい叱責に涙を流し続けた日々」。

底抜けに明るく見える現在の寺沢上人からは想像もできないが、厳しい難行苦行を重ねられたからこそ、イラクでもチェチェンでも、死と隣り合わせにいても平常心を失われなかったのだろうと、はじめて納得がいく。

自己否定、非日常の論理の中にノンセクト・ラディカルを貫いた全共闘世代。「苦難の道程の中で浮かびあがってくる感動の波は、読む者の心を捕えて離さないだろう」と山折哲雄氏は本書をすすめている。

(千)

(B6判三二八ページ 二〇六〇円)





改めて、一人一人が自分の考えをしつかり持ち、立ち上がるしかないと思わせられ、知ること、勉強することの必要を感じています。(岡山県 北 昭子)

\*

〔映画「GAMAと月桃の花」を観て〕

九月八日、渋谷ハチ公前でヤマトンチュウの模擬投票に参加した折、手にした一枚のチラシにこの映画の名があった。

一つ一つのセリフが戦争を刻みつけているのは当たり前かもしれないが、被害者が加害者でもあることをあぶり出している点に、沖縄戦の実相を映画にしたという制作者たちの意図があらわれている。

母が日本人、父がアメリカ人の孫が、おばあちゃんを訪ねてくる。この青年と「平和の礎」の戦没者名簿づくりのアルバイト学生が、基地のフェンスの前で、「正義の為の戦争がある・ない」と言いあう始めの画面は、観客に「さあ、答があるか、みていて」と呼びかけている。

おばあちゃんは自分の夫、つまり、孫のおじいちゃん、娘の父の最後を名簿づ

くりの学生にも、当の孫にも言いたが

ない。そのわけが、戦闘場面を交えて明らかにされてゆく。ハワイ帰りの彼が降服を呼びかける米軍と交渉に出て戻ってきて、GAMA(洞窟)にいる同胞に降服を呼びかけた時、中にいた同郷の人に上官の命令によって撃ち殺されてしまう。

戦火の中を逃げまどう一家は、まず、孫をかばった祖父を、足にけがをしてついでゆけなくなり置き去りを希望する祖母を、米軍の攻撃により長男を、泣き叫ぶ赤ん坊の長女を失なう。夫のあとを追おうとした時泣き声で我にかえり拾った赤ん坊を娘として育ててきた。だから「娘」にも話せなかったのだ。

GAMAで最初に銃殺されたのは泣き叫ぶ赤ん坊を日本兵に殺されて、気のふれた若い母親だった。

「負傷兵を置き去りにする時毒を盛った」と、徴用されたひめゆりの一人は「天皇陛下万歳」を叫んで死ぬ。米軍を悪く言わない内なる戦争を語りかけている。

(東京都 飯岡 祐保)

〔編集後記〕

◆八月末、友人がバイクの事故で急死しました。彼は市民団体「ピースボート」のスタッフで、今まで多くの危険をくぐりぬけてきた強者。アフリカでマラリアにかかりながらも生還し、大震災後の神戸ではボランティアの元締めとして活躍していました。「何も日本で死ぬことはなかったのに……」。追悼の集いで誰かがつぶやきました。

享年二十九歳。「安全」って何なんだろう。この号は亡くなった「梅ちゃん」のことを考えながら作りました。(礼)

\*

◆はじめまして。市役所から飛び出してきた新入りの社会人四年生です、よろしくお願いします。震災後はじめて神戸、六甲、須磨、舞子のほうへ行つて来て大ショックで帰ってきました。震災から一年十か月になりますが、まだまだ残された問題は山積みです。「がんばろう、神戸」の重みを噛みしめています。(絵)

### （おわびと御礼）

◆前号を221・222合併号として発行いたしました。諸般の事情により、今月号を223号ではなく、222号として発行することになりました。申し訳ございませんが、お詫びの上、訂正させていただきます。

◆「私にとって怖いものは……」アンケート、お忙しいなかをご協力、ありがとうございました。まだ第一次集計です。未回答の方は、今からでも大丈夫です。で、ご返送をお待ちしております。

◆「怖いものアンケート」を、もっと数多く、幅広く集めたいと思います。学校などで教えている方、グループに関わっておられる方など、ぜひとも協力をお願いいたします。必要枚数をお知らせ下されば、何百枚でもお送りいたします。

\*

### （募集）

◆『あこら』の資金作りのため、各地の特産品等を通販販売したいと考えています。よい商品（手づくり商品等を含む）

をご存じの方はご連絡を。

◆（BOC）の地方記者を募集します。各地での取材・企画等を担当して下さる方。今までの作品、職歴も添えて、千字以内の自己紹介文を送ってください。

◆『あこら』や（BOC）の出版物を売って下さる方（歩合制）

以上二件とも〒160 東京都新宿区新宿一〇九四（BOC）新企画係へ。

◆あこら英語教室にどうぞ

毎週月曜日 午後六時半〜八時に、少人数で楽しく話し合っています。

先生は韓国系アメリカ人のムーン・グレイスさん。若くてチャームिंगな先生。誠実で一生懸命な授業です。教材は、新聞・雑誌などから身近な問題をとりあげています。自然体の楽しい会話、初心者でも大丈夫。

会費は月額三千円、一回参加することに五百円。場所はあこら新宿事務局（地下鉄丸ノ内線新宿御苑前駅下車・徒歩三分）事前に事務局までお電話を。

TEL 〇三―三三五四―三九四一

◆『あこら』発送日ボランティア募集

毎月九日前後、できたての『あこら』を袋詰め・発送する作業があります。お手伝いして下さる方を募集。作業時間は大体午前十時から午後四時ころまでですが、その間で一時間でも二時間でも大歓迎。ハガキまたは電話でご連絡を。

お手伝い一回につき、交通費実費とBOCの出版物を一冊さしあげます。

◆『あこら』に原稿を！

（集会から）（TOPICS）（阪神から）（沖繩から）（意見／異見）（説書室）（試写室）（TVから）（あこらのあこら）ほか、皆様の原稿をお待ちしています。締切は毎月二十日です。御礼として、掲載誌を三冊贈呈いたします。また、地方の集会の情報などもお知らせください。

◆『あこら』はみんなで作る雑誌です。一方通行ではなく、双方向性のあるメディアとして、どんどん活用していただければ幸いです。（編集部）

特集 沖縄の女たちは今

〈座談会〉したたかに、たおやかに踏み出そう——北京世界

女性会議から一年

セクシュアル・ハラスメント／裁判所通訳人／「台湾」の

旅から／女性の自立と平和を求めて／エロスの魂（たま）

——共同体の祖先神を抱いて

〈座談会〉女たちの反戦運動——母ちゃんの戦い

年表・米兵による戦後沖縄の女性犯罪

常設欄

●シマだより

与那国／石垣／宮古／島尻／那覇／中頭／山原／奄美／関西／関東

●北の風・南の風 ●ひと ●ひろば

●論点 新崎盛暉／伊波美智子／岡本恵徳／真喜志好一

●沖縄 この3カ月（日録）

■ 定期購読の申し込みは、ハガキかFAXでお願いいたします。

定期購読者は一年間四号分（二千元）または二年間八号分

（四千元）を郵便振替（020601019027）で送

金してください。＊バック・ナンバーあり。

新沖縄フォーラム刊行会議

〒902 那覇市国場五五五番地 沖縄大学地域研究所気付

TEL/FAX ☎ 〇九〇八三三一 一五七八

あごら 222号 ●発行 1996年10月10日

●編集 あごら新宿・あごら自立の心理学共編

●発行所 あごらMINI編集部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替00100-0-5264

●定価957円(929円＋税28円)

この ひろい宇宙に  
たった一つの地球

その 大きな地球に  
たった一人のわたし  
そして あなた

かけがえない地球  
かけがえないわたし

かけがえないあなただから  
たいせつに たいせつに しよう

あなたも  
わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと  
ほほえみあえる地球にしよう

へあこら

人と人の出会うひろば

へあこら

人と人の共に生きるひろば